令和８年度　全国学力・学習状況調査

大阪市の結果について

詳細版

大阪市教育委員会事務局

○本資料における「全国」の数値は、「全国（公立）」の数値を掲載しています。

【目次】

1. 令和8年度全国学力・学習状況調査の概要 …2

2. 教科に関する調査結果 …7

（1）小学校国語 …8

（2）小学校算数 …12

（3）中学校国語 …16

（4）中学校数学 …20

（5）中学校英語 …24

3. 質問調査結果 …28

（1）大阪市教育振興基本計画における指標 …29

（2）学校外での過ごし方 …32

（3）学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動の取組 …34

（4）ICTを活用した学習状況 …38

（5）児童生徒のウェルビーイング …42

1. 令和8年度全国学力・学習状況調査の概要

令和8年度 全国学力・学習状況調査 大阪市の結果

1.調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、

・全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
・学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2.調査実施日

令和8年4月20日（月）～5月29日（金）
※中学校英語「聞くこと」「読むこと」「書くこと」 4月20日（月）～23日（木）
「話すこと」 当日実施 ：4月24日（金）・27日（月）
期間内実施：4月28日（火）～5月29日（金）

3.調 査 対 象

①小学校第6学年・義務教育学校前期課程第6学年の全児童
小学校 282校 17,346人 （※小学校に義務教育学校前期課程1校を含む）
②中学校第3学年・義務教育学校後期課程第3学年の全生徒
中学校 131校 15,141人 （※中学校に義務教育学校後期課程1校を含む）
※後日実施や別室受検等の諸事情により全体集計の対象外として個人票のみを発行した児童生徒（以下、当該児童生徒という）は含みません。次ページ以降の集計値やグラフに当該児童生徒を集計した値は含めておりません。

4.調 査 事 項

① 児童生徒：教科調査【国語、算数・数学、英語（中学校のみ）】 / 質問調査
② 学 校 ：質問調査

5.調 査 問 題

・学習指導要領で育成をめざす、知識及び技能や思考力、判断力、表現力等を問う問題を出題
・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善のメッセージを発信

6. 今年度の調査の特徴

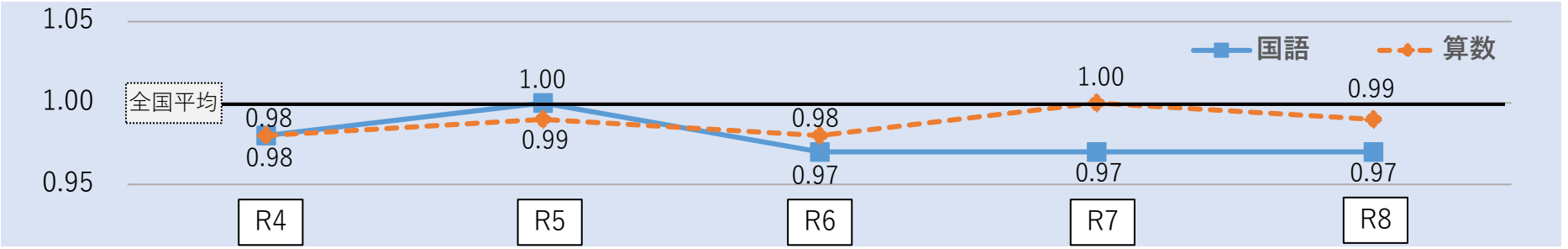
・中学校英語4技能（「聞くこと」「読むこと」「書くこと」「話すこと」）の全面CBT化
（「話すこと」調査のみ令和5年度もCBTで実施）
・小学校児童質問でのランダム方式の導入

小学校・教科（国語・算数）の平均正答率・対全国比・学力層に着目した児童の割合

小学校（国語・算数）

※全国（公立）の平均正答率を1としたときの大阪市の割合を「対全国比」として表しています。

	R4				R5				R6				R7				R8			
	大阪市	大阪府	全国	対全国比	大阪市	大阪府	全国	対全国比	大阪市	大阪府	全国	対全国比	大阪市	大阪府	全国	対全国比	大阪市	大阪府	全国	対全国比
国語	64	64	65.6	0.98	67	66	67.2	1.00	66	66	67.7	0.97	65	65	66.8	0.97	59	59	60.9	0.97
算数	62	63	63.2	0.98	62	62	62.5	0.99	62	63	63.4	0.98	58	58	58.0	1.00	56	56	56.4	0.99



学力層に着目した児童の割合

※全国の児童全員の正答分布の状況から高い順に概ね25%になるように区切り、区分Ⅰ・区分Ⅱ・区分Ⅲ・区分Ⅳの4つに分け分析しました。なお、正答数が同じ場合は、上位の区分に含んでいます。
※大阪市と全国との差の値は、区分Ⅰ・区分Ⅱについては差が大きいほど、区分Ⅲ・区分Ⅳについては差が小さいほど、良好な結果を表しています。

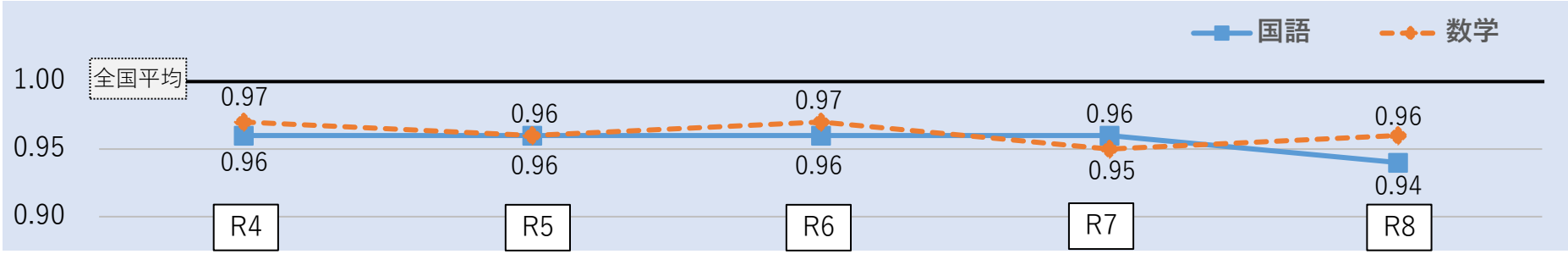
		R4			R5			R6			R7			R8		
		大阪市	全国	全国との差	大阪市	全国	全国との差	大阪市	全国	全国との差	大阪市	全国	全国との差	大阪市	全国	全国との差
国語	区分Ⅰ	24.5	28.4	-3.9	26.6	27.1	-0.5	25.9	29.9	-4.0	25.3	27.7	-2.4	31.1	10問～13問 34.2	-3.1
	区分Ⅱ	24.7	24.5	0.2	27.3	28.1	-0.8	26.3	25.8	0.5	25.0	26.0	-1.0	23.0	8問～9問 23.6	-0.6
	区分Ⅲ	27.6	26.2	1.4	21.0	20.8	0.2	20.6	19.7	0.9	29.7	28.5	1.2	20.6	6問～7問 19.8	0.8
	区分Ⅳ	23.2	20.9	2.3	25.1	24.0	1.1	27.2	24.6	2.6	20.0	17.8	2.2	25.3	0問～5問 22.2	3.1
算数	区分Ⅰ	28.4	30.2	-1.8	29.6	30.0	-0.4	31.9	33.8	-1.9	26.0	25.3	0.7	31.2	12問～16問 31.1	0.1
	区分Ⅱ	21.8	21.7	0.1	19.2	20.1	-0.9	17.9	18.5	-0.6	25.2	25.6	-0.4	24.4	9問～11問 25.0	-0.6
	区分Ⅲ	24.0	24.3	-0.3	30.0	30.5	-0.5	28.4	27.7	0.7	28.5	29.1	-0.6	22.7	6問～8問 22.2	0.5
	区分Ⅳ	25.8	23.7	2.1	21.2	19.5	1.7	21.8	20.0	1.8	20.3	20.1	0.2	21.7	0問～5問 21.6	0.1

中学校・教科（国語・数学）の平均正答率・対全国比・学力層に着目した生徒の割合

中学校（国語・数学）

※全国（公立）の平均正答率を1としたときの大阪市の割合を「対全国比」として表しています。

	R4				R5				R6				R7				R8			
	大阪市	大阪府	全国	対全国比	大阪市	大阪府	全国	対全国比	大阪市	大阪府	全国	対全国比	大阪市	大阪府	全国	対全国比	大阪市	大阪府	全国	対全国比
国語	66	67	69.0	0.96	67	68	69.8	0.96	56	57	58.1	0.96	52	52	54.3	0.96	60	61	63.9	0.94
数学	50	51	51.4	0.97	49	50	51.0	0.96	51	51	52.5	0.97	46	47	48.3	0.95	55	55	57.0	0.96



学力層に着目した生徒の割合

※全国の生徒全員の正答分布の状況から高い順に概ね25%になるように区切り、区分Ⅰ・区分Ⅱ・区分Ⅲ・区分Ⅳの4つに分け分析しました。なお、正答数が同じ場合は、上位の区分に含んでいます。

※大阪市と全国との差の値は、区分Ⅰ・区分Ⅱについては差が大きいほど、区分Ⅲ・区分Ⅳについては差が小さいほど、良好な結果を表しています。

		R4			R5			R6			R7			R8		
		大阪市	全国	全国との差	大阪市	全国	全国との差	大阪市	全国	全国との差	大阪市	全国	全国との差	大阪市	全国	全国との差
国語	区分Ⅰ	26.4	31.2	-4.8	30.1	33.4	-3.3	30.1	33.5	-3.4	22.8	25.8	-3.0	27.7	12問～15問 33.5	-5.8
	区分Ⅱ	26.8	28.4	-1.6	23.0	24.2	-1.2	21.0	21.2	-0.2	26.9	27.5	-0.6	21.8	10問～11問 22.1	-0.3
	区分Ⅲ	21.1	19.0	2.1	23.3	23.0	0.3	26.9	26.5	0.4	25.1	24.2	0.9	26.3	7問～9問 24.9	1.4
	区分Ⅳ	25.6	21.4	4.2	23.6	19.4	4.2	22.0	18.9	3.1	25.1	22.5	2.6	24.1	0問～6問 19.5	4.6
数学	区分Ⅰ	28.6	30.5	-1.9	24.8	27.3	-2.5	25.9	27.3	-1.4	25.1	27.0	-1.9	27.2	13問～16問 29.1	-1.9
	区分Ⅱ	26.3	27.5	-1.2	22.5	24.0	-1.5	27.1	29.3	-2.2	24.7	26.1	-1.4	20.5	10問～12問 21.0	-0.5
	区分Ⅲ	23.4	23.0	0.4	32.5	31.1	1.4	23.5	23.1	0.4	23.4	23.3	0.1	30.0	5問～9問 30.3	-0.3
	区分Ⅳ	21.8	19.0	2.8	20.2	17.6	2.6	23.5	20.3	3.2	26.9	23.8	3.1	22.4	0問～4問 19.4	3.0

中学校・教科（英語・4技能）の平均IRTスコア・IRTバンド分布

中学校（英語CBT）

○中学校英語はCBT（Computer Based Testing）にて実施しています。
　前回までの調査結果はPBT（Paper Based Testing）にて実施されており、平均正答率で結果が返却されています。
○IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。
　この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

【平均IRTスコア（※1）】

平均IRTスコア	R8		
	大阪市	大阪府	全国
英語4技能（参考：3技能）	499（499）	497（498）	499（499）

（※1）
・IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。
・「聞くこと・読むこと・書くこと・話すこと」の4技能を統合したスコアを示しています。
（ ）内の数値は3技能の平均IRTスコアを表しています。

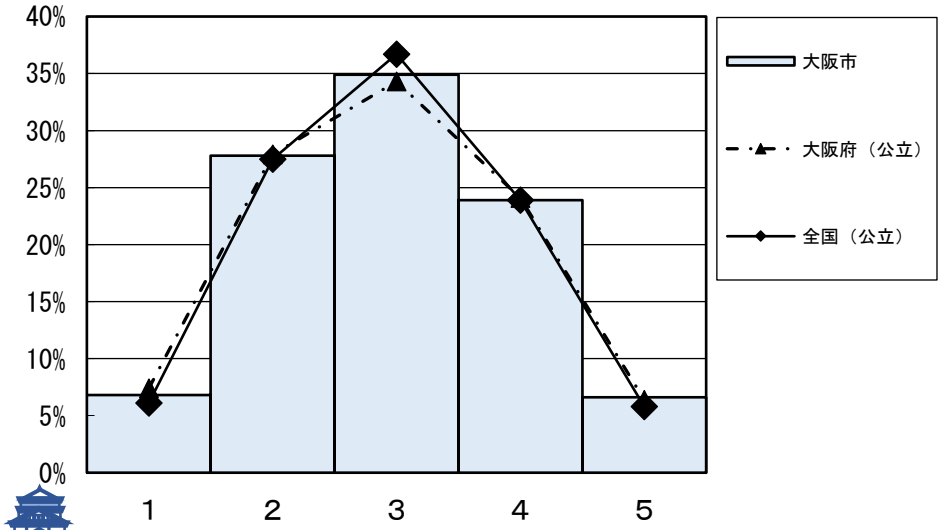
《参考》

平均正答率	R1			R5		
	大阪市	全国	対全国比	大阪市	全国	対全国比
英語	54	56.0	0.96	44	45.6	0.96

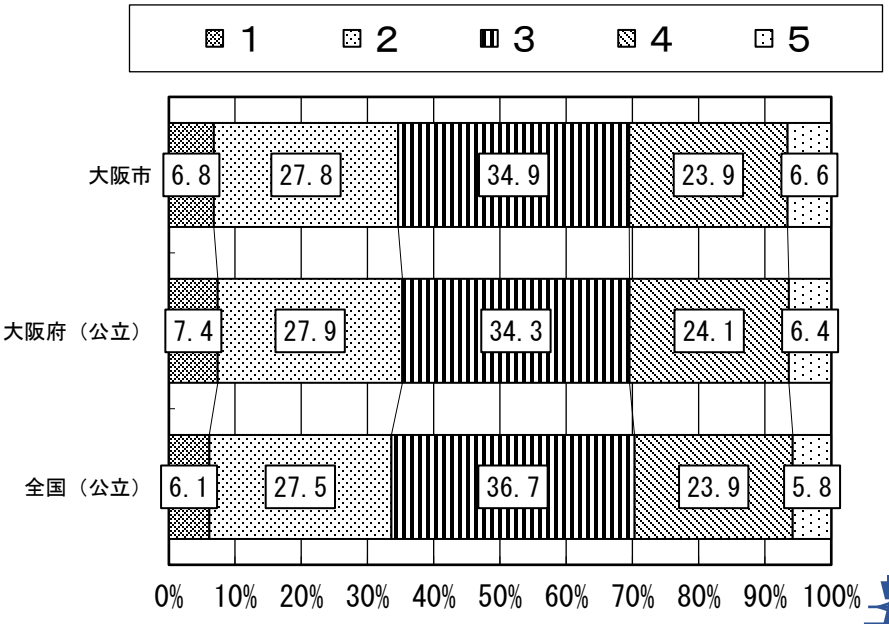
【IRTバンド分布グラフ（横軸：IRTバンド　縦軸：割合）】（※2）

（※2）IRTバンド（1～5）は4技能のIRTスコアを5段階に区切ったものであり、3を基準としたバンドで、5が最も高いバンドとなっています。

【IRTバンド分布比較】



【IRTバンド分布比較】



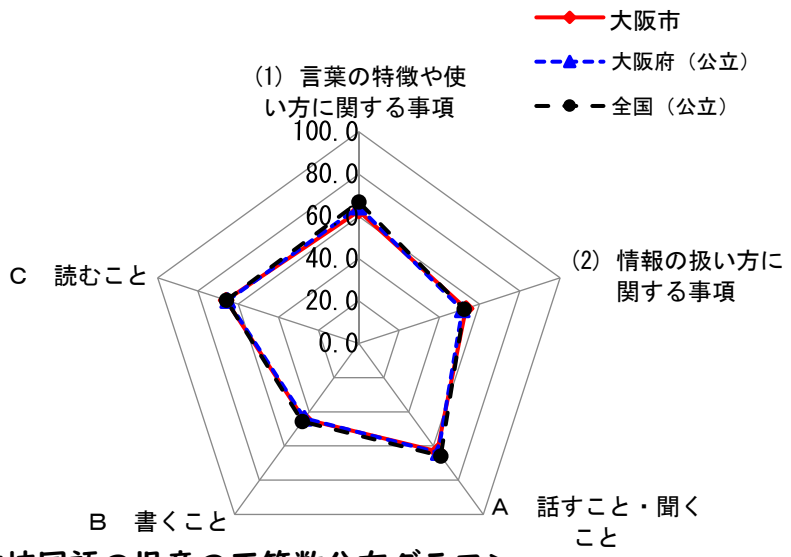
2. 教科に関する調査結果

教科に関する調査結果【小学校国語】

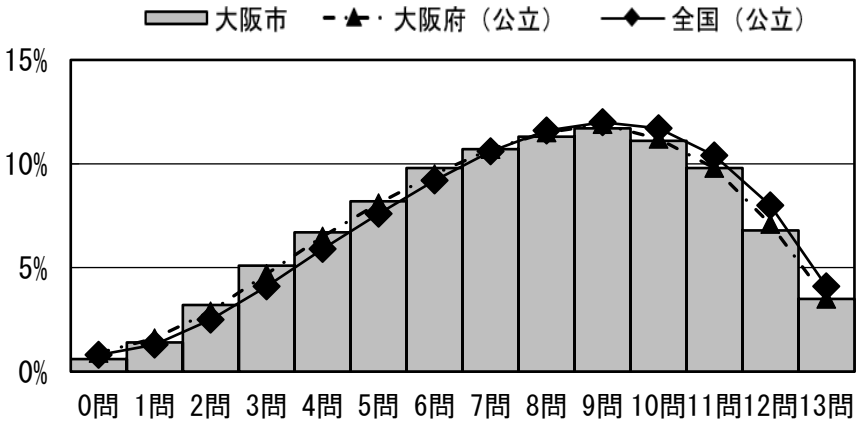
	平均正答数	平均正答率(%)	平均無解答率(%)	中央値	標準偏差	最頻値
大阪市	7.7	59	2.8	8.0	3.0	9問
全国（公立）	7.9	60.9	3.4	8.0	3.0	9問

＜分類・区分別集計結果＞

分類		区分	対象問題数（問）	平均正答率（%）	
				大阪市	全国（公立）
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	4	62.5	66.8
		(2)情報の扱い方に関する事項	2	53.2	52.3
		(3)我が国の言語文化に関する事項	0	-	-
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	63.1	65.8
		B 書くこと	2	44.2	45.7
		C 読むこと	2	66.0	65.9
評価の観点		知識・技能	6	59.4	62.0
		思考・判断・表現	7	58.5	60.1
問題形式		選択式	9	60.2	61.9
		短答式	2	57.3	62.6
		記述式	2	54.8	54.9



＜小学校国語の児童の正答数分布グラフ＞



教科に関する調査結果【小学校国語】

分析のポイント（成果）

○「読むこと」において、文章の内容や構造を捉えて精査・解釈し、その理解に基づいて、自分の経験や既有の知識等と結び付けながら、考えを形成し、条件に合うようまとめて書くことができた。

具体的な設問例 大問３三（２）

○【文章】を読んで考えたことを、自分の経験と結び付けてまとめて書く。

解答の分析

３三（２）
正答率
・大阪市　78.3%
・全国（公立）76.4%
→対全国比　1.025

無解答率
・大阪市　13.5%
・全国（公立）15.6%

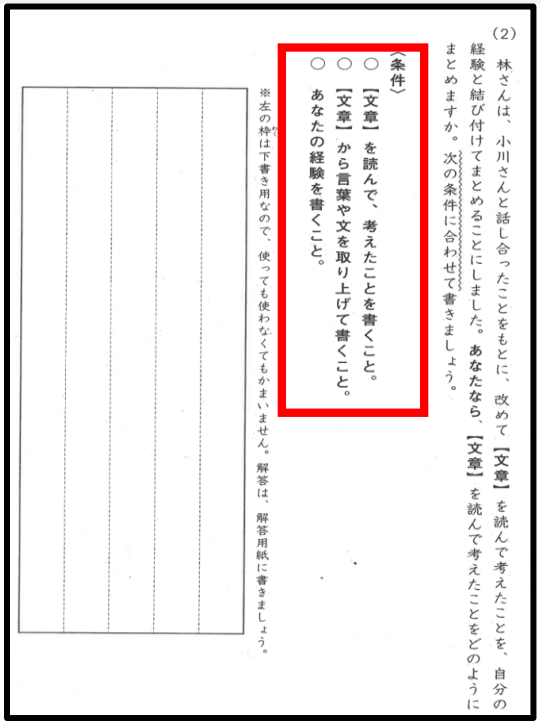
①【文章】から言葉や文を取り上げて書くという条件に当てはまる。

②自分の経験と結び付けて書くという条件に当てはまる。

正答例
私は「苦手」は「きらい」だと思っていました。でも、この文章を読んで①「苦手」でも「好き」なことがあると気付きました。②私は、水泳で競うのは「苦手」ですがゆっくり泳ぐのは「好き」です。だから、「苦手」だからといって、すべてのことが「きらい」なわけではないと思いました。これからは苦手であってもチャレンジしてみたいと思いました。

誤答例
この文章を読んで、苦手と思ってしまっても楽しくできる方法があるのではないか、と考えるようにしたいと思いました。苦手だからきらいではなく、苦手でも楽しくやりたいと思いながら生活したらもっとやってみたいことが増えると考えました。

自分の経験と結び付けて書くという条件に当てはまらない。



学習指導のポイント

○文章を読んで自分の考えをまとめるためには、まず「何を捉えるために読むのか」という読む目的を明確にし、情報を取捨選択する意識をもたせることが重要である。例えば、「自分にも似た経験がある」「これまでにない考え方だ」「友だちは別の見方をしていた」等の視点を示し、既有の知識・経験と結び付けながら考えを形成させる。児童同士の交流は、他者の考えを受け、自分の考えを再構成し、質を高めることにつながる。

教科に関する調査結果【小学校国語】

分析のポイント（課題①）

○「書くこと」において、引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題が見られた。

具体的な設問例 大問２四

○【花山さんの文章の続き】の空欄に入る内容を、【集めた情報】から抜き出し、涼しく過ごせる色についての考えが伝わるように引用して書く。

解答の分析

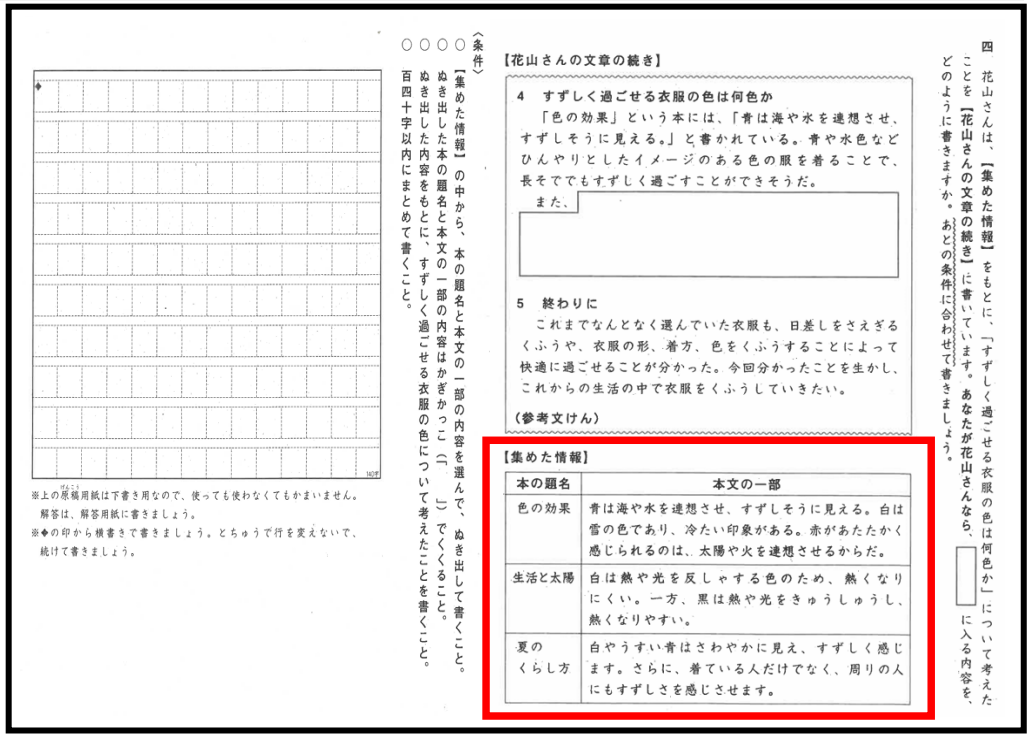
２四　正答率
- 大阪市　31.3%
- 全国（公立）33.5%
- →対全国比　0.934

無解答率
- 大阪市　5.4%
- 全国（公立）5.2%

正答例
「生活と太陽」という本には、「白は熱や光を反しゃする色のため、熱くなりにくい。一方、黒は熱や光をきゅうしゅうし、熱くなりやすい。」と書かれている。特に強い日差しが照りつけるえん天下では、黒い服より白い服を着る方が、すずしく過ごすことができそうだ。
（123字）

涼しく過ごせる衣服の色についての考えを書いている。しかし、【集めた情報】の内容を自分の考えのように書いたり、引用部分と自分の考えを区別したりして書くことができなかったと考えられる。

誤答例
白は雪の色であり、冷たい印象がある。また、白色や青色の衣服は着ている人だけでなく、周りの人にもすずしさを感じさせることができる。（64字）



四　花山さんは、【集めた情報】をもとに、「すずしく過ごせる衣服の色は何色か」について考えたことを【花山さんの文章の続き】に書いています。あなたが花山さんなら、［　　］に入る内容を、どのように書きますか。あとの条件に合わせて書きましょう。

【花山さんの文章の続き】

4　すずしく過ごせる衣服の色は何色か

「色の効果」という本には、「青は海や水を連想させ、すずしそうに見える。」と書かれている。青や水色などひんやりとしたイメージのある色の服を着ることで、長そでででもすずしく過ごすことができそうだ。

また、［　　］

5　終わりに

これまでなんとなく選んでいた衣服も、日差しをさえぎるくふうや、衣服の形、着方、色をくふうすることによって快適に過ごせることが分かった。今回分かったことを生かし、これからの生活の中で衣服をくふうしていきたい。

（参考文けん）

【集めた情報】

本の題名	本文の一部
色の効果	青は海や水を連想させ、すずしそうに見える。白は雪の色であり、冷たい印象がある。赤があたたかく感じられるのは、太陽や火を連想させるからだ。
生活と太陽	白は熱や光を反しゃする色のため、熱くなりにくい。一方、黒は熱や光をきゅうしゅうし、熱くなりやすい。
夏のくらし方	白やうすい青はさわやかに見え、すずしく感じます。さらに、着ている人だけでなく、周りの人にもすずしさを感じさせます。

〈条件〉
○【集めた情報】の中から、本の題名と本文の一部の内容を選んで、ぬき出して書くこと。
○ぬき出した本の題名と本文の一部の内容はかぎかっこ（「　」）でくくること。
○ぬき出した内容をもとに、すずしく過ごせる衣服の色について考えたことを書くこと。
百四十字以内にまとめて書くこと。

※上の原稿用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。
※◆の印から横書きで書きましょう。とちゅうで行を変えないで、続けて書きましょう。

指導改善のポイント

○引用の目的を明確にした上で、必要な語句や文を適切に抜き出し、自分の考えが伝わるように書く指導を行うことが大切である。例えば、引用すべき文章をどのように組み合わせればより説得力があるかを交流させることで、引用の効果、根拠に基づいて自分の考えをより的確に伝える表現への向上を図ることができる。

教科に関する調査結果【小学校国語】

分析のポイント（課題②）

○資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することに課題が見られた。

具体的な設問例 大問Ⅰ二（1）

○岡野さんたちのグループは、【動画の一部】をどのように工夫して撮影しているか、適切なものを答える。

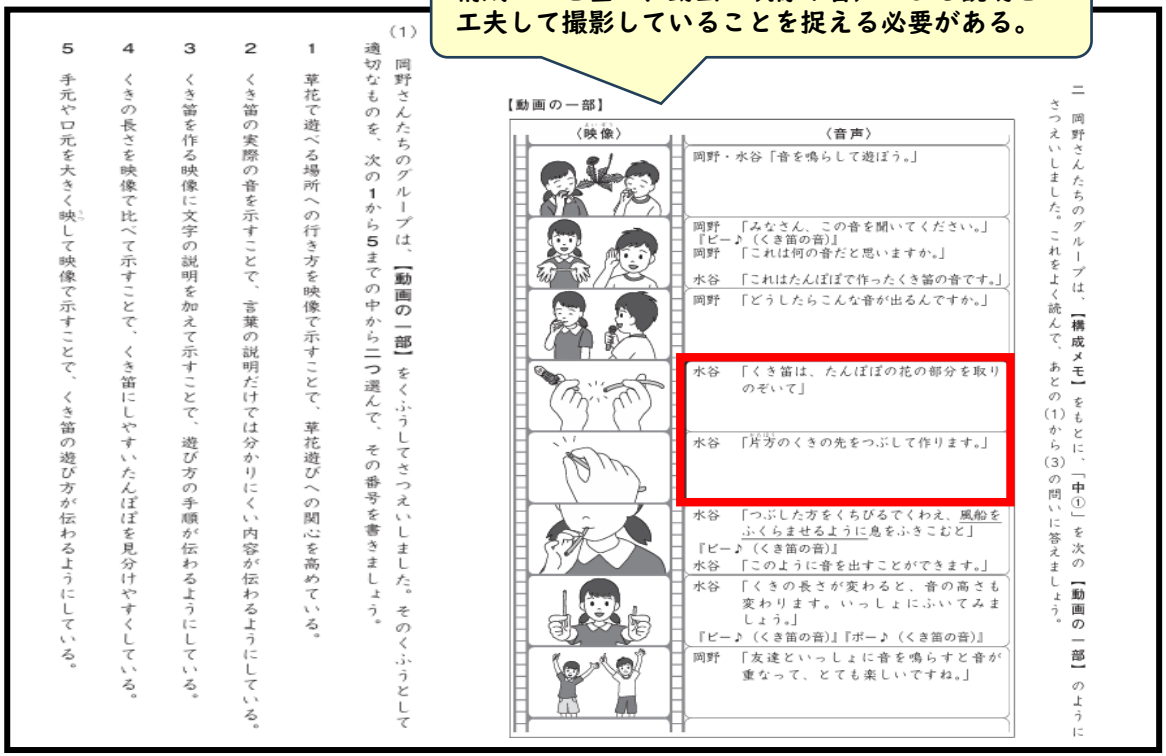
解答の分析

Ⅰ二（1）
正答率
・大阪市　53.5%
・全国（公立）60.2%
→対全国比　0.889
無解答率
・大阪市　0.2%
・全国（公立）0.6%

正答
2・5と解答しているもの
（正答率 53.5%）

誤答
茎笛の実際の音を示すことで、言葉の説明だけでは分かりにくい内容が伝わるようにしていること、手元や口元を大きく映して映像で示すことで、茎笛の遊び方が伝わるようにしていることを捉えることができなかった児童がいたと考えられる。

資料を用いる目的や効果を理解しているかを見取る必要がある。



指導改善のポイント

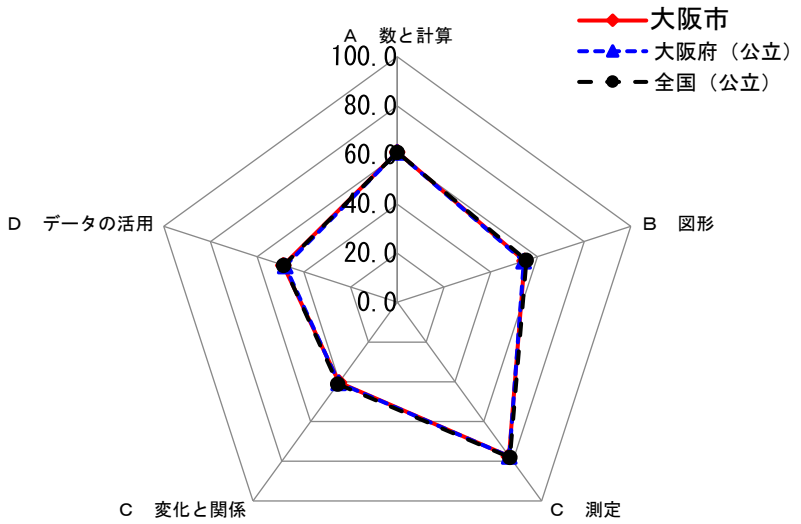
○資料を効果的に活用して、目的・相手・状況に応じて説明を工夫したり、自分ならどう説明するかを意識しながら聞いたりする活動を取り入れることが大切である。また、国語に限らず授業や学校生活の中でも説明する機会を意図的に設けることが重要である。

教科に関する調査結果【小学校算数】

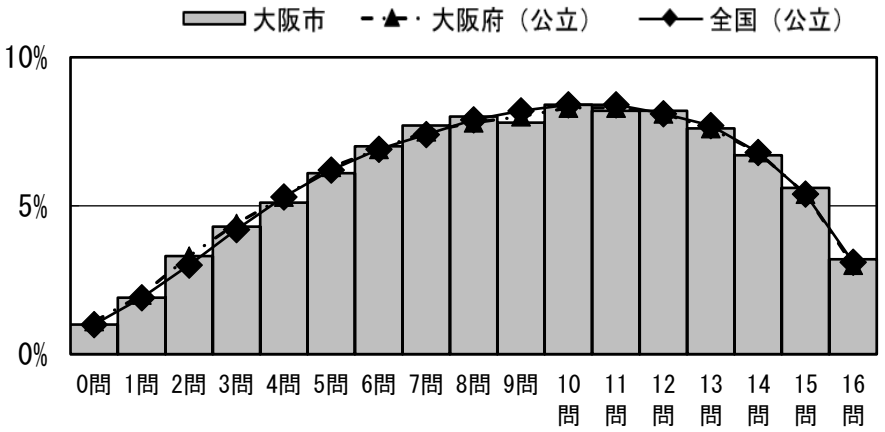
	平均正答数	平均正答率(%)	平均無解答率(%)	中央値	標準偏差	最頻値
大阪市	9.0	56	2.8	9.0	4.0	10問
全国(公立)	9.0	56.4	3.2	9.0	4.0	10問

＜分類・区分別集計結果＞

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)	
			大阪市	全国(公立)
学習指導要領の領域	A 数と計算	8	61.2	61.1
	B 図形	4	54.5	55.3
	C 測定	1	77.5	78.1
	C 変化と関係	3	40.3	41.1
	D データの活用	4	48.8	48.6
評価の観点	知識･技能	12	60.1	60.1
	思考･判断･表現	4	45.0	45.4
問題形式	選択式	5	56.2	56.0
	短答式	8	59.4	59.7
	記述式	3	48.4	48.5



＜小学校算数の児童の正答数分布グラフ＞



教科に関する調査結果【小学校算数】

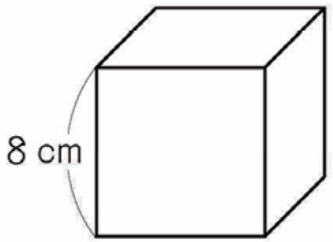
分析のポイント（成果）

○立方体の体積の計算による求め方への理解については、成果が見られた。

具体的な設問例 大問１（１）

○一辺の長さが示された立方体について、体積を求めるための式を答える。

(1) １辺が８cmの立方体の体積が何cm³かを求める式を書きましょう。
ただし、計算の答えを書く必要はありません。



正答率(%)	大阪市	全国(公立)	対全国比
大問１(１)	75.9	72.7	1.044

解答の分析

正答「８×８×８」 …75.9%
誤答「８×８」 … 8.6%
「８×６」 … 1.8%
「８×３」「８＋８＋８」 … 3.3%
それ以外 … 9.1%
無解答率 1.2% 全国（公立）1.3%

正答率75.9%のため、一定数の児童は体積の求め方を理解できていると考えられる。
誤答の「８×８」は、正方形の面積の求め方と混同していると考えられる。「８×６」「８×３または８＋８＋８」やそれ以外を合計すると、12.4%の児童は立方体の特徴（全ての辺の長さが等しいこと）や体積の求め方について理解していないと考えられる。

※立方体の体積の求め方を理解している点は成果として挙げられるが、大問１（３）の結果を見ると、体積の意味を理解することについては指導が必要である。

参考１（３）

１cm³の立方体が36個あります。36個をすべて使って、高さが４cmの直方体を１つ作りました。
その直方体の体積は何cm³ですか。
答えを書きましょう。

正答率(%)	大阪市	全国(公立)	対全国比
大問１(３)	38.3	40.1	0.955

正答「36」 …38.3%
誤答「144」…21.1% 「９」…13.9% 「４」…1.8%
「36，144，４以外で４の倍数の答え」 …15.6%
その他の解答… 5.3%
無解答率 3.9% 全国（公立）4.2%

「144」は36×４、「９」は36÷４で計算した結果になる。これらの誤答も含めると、50.6%の児童が36（個数）や、４（高さ）を使って計算で求めようとしたと考えられる。

学習指導のポイント

○立方体や直方体の特徴や体積の求め方を理解する学習の指導に当たっては、公式を用いて体積を求める活動だけでなく、長さの等しい辺に着目して特徴を捉えたり、１cm³の立方体を単位とするといくつ分になっているか数値化して捉えたりする経験を学習活動に取り入れることで、体積の意味を理解させることが大切である。

教科に関する調査結果【小学校算数】

分析のポイント（課題①）

○二次元の表から、条件に合う数を読み取ることに課題が見られた。

具体的な設問例 大問４（３）

○二次元の表から、条件に合う数を読み取る。

(3) さくらさんたちは、前半と後半のあやとりやかるたに参加する１年生の人数を下の表にまとめました。

前半と後半の遊びごとの人数　（人）

		後半		合計
		あやとり	かるた	
前半	あやとり	4	9	13
	かるた	8	7	15
合計		12	16	28

さくらさんたちは、あやとりに参加する１年生にひもをわたします。

わたすひもの本数を知るために、表からあやとりに参加する人数を調べると、次のことがわかります。

前半にあやとりに参加する人数は ㋐ 人です。
前半はかるたに参加し、後半はあやとりに参加する人数は ㋑ 人です。

上の㋐、㋑に入る数を、それぞれ書きましょう。

解答の分析

正答率（%）	大阪市	全国（公立）	対全国比
大問4（3）	17.9	17.9	1.000

正答　ア「13」　イ「８」
誤答　アは正答、イは誤答…25.9%　アを正答…43.8%
　　アは誤答、イは正答…19.6%　イを正答…37.5%
　　アもイも誤答　…36.6%
無解答率　3.2%　全国（公立）3.9%

アもイも、答えは表の中に記載されており、二つの観点で分類整理する方法を理解できているかが問われている。
アの答えを「前半あやとり」の合計欄から正しく答えられた割合は43.8%である。イの答えを「前半かるた、後半あやとり」の欄から正しく答えられた割合は37.5%である。二次元の表における、各欄の数が何の数を表しているのかを捉えることに課題が見られる。

指導改善のポイント

○指導に当たっては、二つの項目を順序よく追うこと、表中の数値の意味を捉えること、行や列を合わせた合計欄を読み取ることを意識させる。また、日常の生活や授業の中で二次元の表を作成する活動を取り入れることも、分類整理の仕方を理解させるうえで大切である。

教科に関する調査結果【小学校算数】

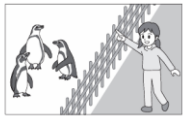
分析のポイント（課題②）

○単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解し、その商から二つの広場のどちらが混んでいるのかについて判断することに課題が見られた。

具体的な設問例 大問２（３）

○ペンギンがいる二つの広場の混み具合を求める式の意味について、正しいものを選ぶ。

(3) AとBの２つのペンギンの広場があります。
下の表は、広場にいるペンギンの数と広場の面積を表しています。



広場にいるペンギンの数と広場の面積

	ペンギンの数（羽）	面積（m²）
A	10	20
B	12	30

ことねさんは、どちらの広場の方がこんでいるのかを調べるために、下の計算をしました。

【ことねさんの計算】

A　10 ÷ 20 = 0.5
B　12 ÷ 30 = 0.4

【ことねさんの計算】をもとに、どちらの広場の方がこんでいるのかについて、下のようにまとめます。
下のアとイ、ウとエの中から、正しいものをそれぞれ選んで、その記号を書きましょう。

【ことねさんの計算】は［ア　1 m²あたりのペンギンの数 / イ　1羽あたりの面積］を求めています。
商を比べると［ウ　商が大きいAの広場 / エ　商が小さいBの広場］の方がこんでいることがわかります。

正答率（%）	大阪市	全国（公立）	対全国比
大問2（3）	34.7	36.1	0.961

解答の分析

正答　ア・ウを選択　…34.7%
誤答　ア・エを選択　…14.6%　} アを選択 …49.3%
　　イ・ウを選択　…23.3%
　　イ・エを選択　…23.7%
その他 2.2%　無解答率1.5%　全国（公立）1.6%

示された除法の式が「1 m²当たりのペンギンの数」なのか「ペンギン1羽当たりの面積」なのかを判断することに課題が見られる。アを選んだ割合は49.3%であり、<u>およそ半分の児童が式の意味を正しく選択できていない</u>。
なお、アを選んだ49.3%のうち正答は34.7%であることから、式の意味を正しく選択した児童のうち、<u>商をもとにどちらがより混んでいるか正しく選択できている児童は約７割</u>である。

指導改善のポイント

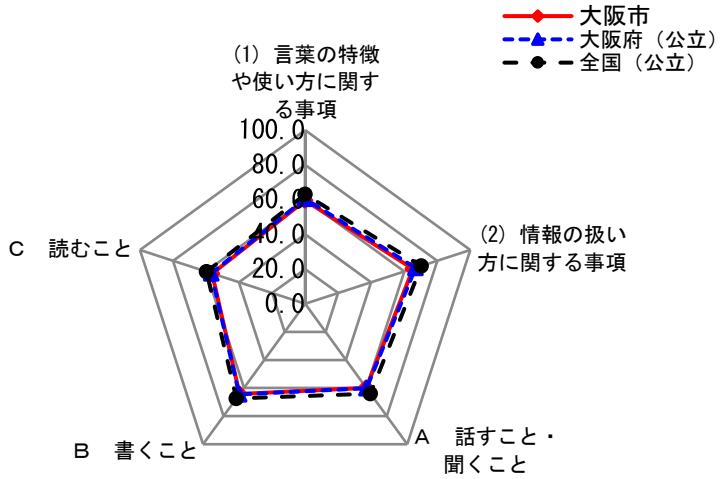
○指導に当たっては、混み具合のような、一つの数量だけでは比べられない日常生活や身近な事象をもとに、<u>関わりのある二つの要素を見い出し、どちらか一方の量をそろえる必要性</u>を感じられる活動を取り入れることで、具体的な場面と計算が関連付けて理解できるようにしていくことが大切である。

教科に関する調査結果【中学校国語】

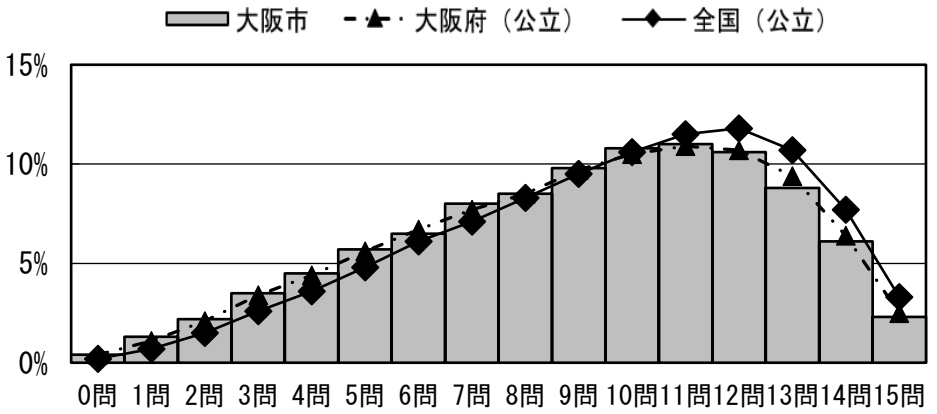
	平均正答数	平均正答率(%)	平均無解答率(%)	中央値	標準偏差	最頻値
大阪市	9.0	60	5.4	9.0	3.4	11問
全国(公立)	9.6	63.9	4.9	10.0	3.3	12問

＜分類・区分別集計結果＞

分類		区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)	
				大阪市	全国(公立)
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	5	59.5	63.0
		(2)情報の扱い方に関する事項	1	65.3	70.4
		(3)我が国の言語文化に関する事項	0	-	-
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	59.9	63.9
		B 書くこと	3	64.2	67.4
		C 読むこと	3	56.3	59.7
評価の観点		知識・技能	6	60.5	64.2
		思考・判断・表現	9	60.1	63.7
問題形式		選択式	9	69.7	72.7
		短答式	3	51.4	55.8
		記述式	3	40.8	45.5



＜中学校国語の生徒の正答数分布グラフ＞



教科に関する調査結果【中学校国語】

分析のポイント（成果）

○表現の効果を考えて描写することについて成果が見られた。

具体的な設問例 大問３ ニ

○気持ちがより伝わるように、表現を工夫して書く。

解答の分析

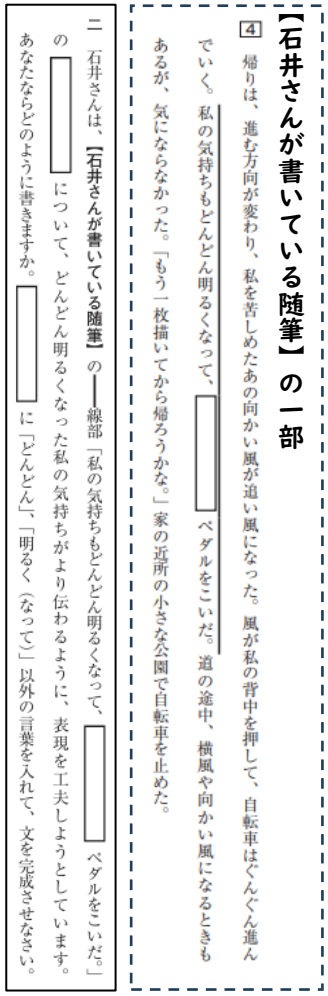
３ニ
正答率
・大阪市　89.8%
・全国（公立）92.3%
→対全国比　0.972

無解答率
・大阪市　6.8%
・全国（公立）4.8%

正答例
１「比喩的な表現や反復などを使って工夫しているもの」
・空を飛ぶように　・心をおどらせながら
・前へ前へとぐんぐん　・よりはやく、より強く

２「比喩的な表現や反復などを使わず、行為や心情を表す語句などを使って工夫しているもの」
・軽やかに　・わくわくしながら
・鼻歌を歌いながら　・足に力を込めて

より効果的な語句や表現を選んで、自分の考えが伝わるように工夫して描写できている。


【石井さんが書いている随筆】の一部

4 帰りは、進む方向が変わり、私を苦しめたあの向かい風が追い風になった。風が私の背中を押して、自転車はぐんぐん進んでいく。私の気持ちもどんどん明るくなって、［　　］ペダルをこいだ。道の途中、横風や向かい風になるときもあるが、気にならなかった。「もう一枚描いてから帰ろうかな。」家の近所の小さな公園で自転車を止めた。

ニ　石井さんは、【石井さんが書いている随筆】の――線部「私の気持ちもどんどん明るくなって、［　　］ペダルをこいだ。」の［　　］について、どんどん明るくなった私の気持ちがより伝わるように、表現を工夫しようとしています。あなたならどのように書きますか。［　　］に「どんどん」、「明るく（なって）」以外の言葉を入れて、文を完成させなさい。

学習指導のポイント

○教科書の本文中の特定の表現に着目し、筆者の表現の工夫や別の言葉への置き換えなどをグループで話し合う中で、より効果的に伝わる表現方法について考えを深め、その表現方法を使って実際に自分で文章を書くことで、よりよい表現を工夫することができる。

教科に関する調査結果【中学校国語】

分析のポイント（課題①）

〇文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることに課題が見られた。

具体的な設問例
大問４　四

〇二つの例文を比べながら、擬態語「きっぱり」が表している具体的な様子と擬態語の効果を書く。

解答の分析

４四
正答率
- 大阪市　33.9%
- 全国（公立）38.9%
  →対全国比　0.871

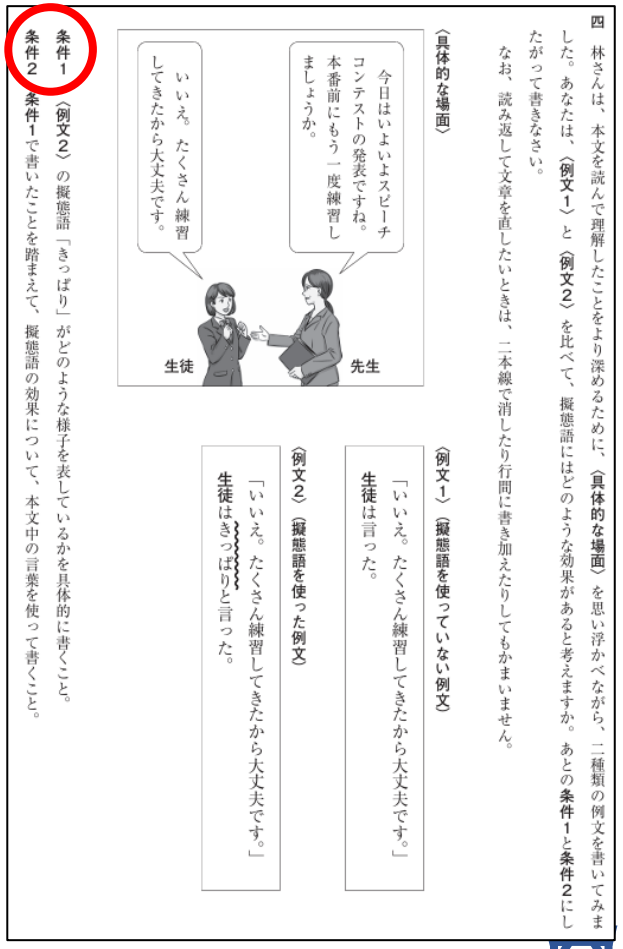
無解答率
- 大阪市　20.4%
- 全国（公立）18.6%

条件１、条件２の両方の条件を満たして解答している。
条件１　「きっぱり」が表す内容を具体的に書けている
条件２　本文中の言葉を使って書いている

正答例
・「きっぱり」は、生徒が先生に向かって、自信を持って力強く言い切っている様子を表している。このように、擬態語は話している様子の包括的なイメージを表現することができる。

条件１は満たしているが、条件２を満たさずに解答している。

誤答例
・「きっぱり」という擬態語を使うことによって生徒がたくさん練習をしてきて、発表に自信があるように感じさせる効果がある。


四　林さんは、本文を読んで理解したことをより深めるために、〈具体的な場面〉を思い浮かべながら、二種類の例文を書いてみました。あなたは、〈例文１〉と〈例文２〉を比べて、擬態語にはどのような効果があると考えますか。あとの条件１と条件２にしたがって書きなさい。
なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

〈具体的な場面〉

今日はいよいよスピーチコンテストの発表ですね。本番前にもう一度練習しましょうか。

いいえ。たくさん練習してきたから大丈夫です。

生徒　先生

〈例文１〉〈擬態語を使っていない例文〉
「いいえ。たくさん練習してきたから大丈夫です。」
生徒は言った。

〈例文２〉〈擬態語を使った例文〉
「いいえ。たくさん練習してきたから大丈夫です。」
生徒はきっぱりと言った。

条件１　〈例文２〉の擬態語「きっぱり」がどのような様子を表しているかを具体的に書くこと。
条件２　条件１で書いたことを踏まえて、擬態語の効果について、本文中の言葉を使って書くこと。

指導改善のポイント

〇文章に書かれている大まかな内容について自分の考えを述べることにとどまるのではなく、その文章の内容についてどのように解釈したかを確かめる学習活動が考えられる。例えば、読んだ文章を基に自分の考えをまとめ、まとめた考えやその根拠についてグループで交流し、よい点や改善点を話し合うことで自分の考えを確かなものにできる。

教科に関する調査結果【中学校国語】

分析のポイント（課題②）

○語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えることに課題が見られた。

具体的な設問例 大問４　ニ

○国語辞典を参考にして、「ほうふつとさせる」と同じような内容を表す別の表現を文章中から抜き出す。

解答の分析

４ニ
正答率
・大阪市　31.9%
・全国（公立）35.2%
→対全国比　0.906

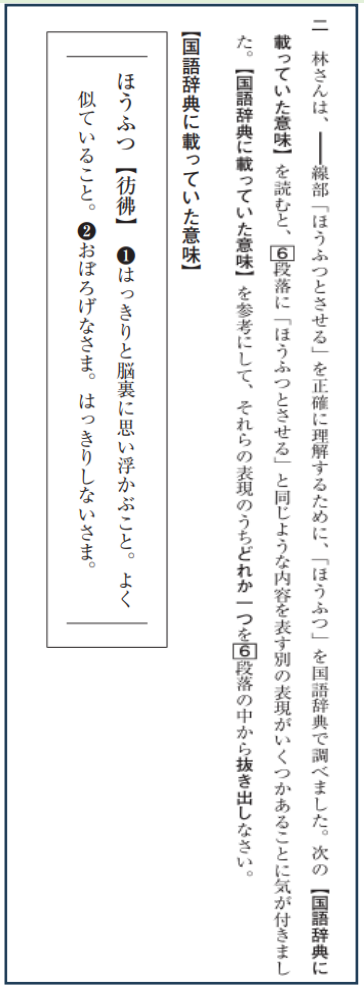
無解答率
・大阪市　19.9%
・全国（公立）19.8%

正答例
・ありありと映し出している　・心に思い描く
・包括的に含んだイメージを得る

本文中の前後の語句を含んで抜き出したり、一部だけを抜き出したりしているものも正答である。

誤答例
・ありありと　・包括的に　・イメージ
・（ことば以外の部分にも）たくさんの意図を託している

「はっきり」「おぼろげ」など「ほうふつ」の意味の一部だけを捉えた、または「ほうふつとさせる」の文脈上の意味を捉えられなかったと考えられる。



ニ　林さんは、――線部「ほうふつとさせる」を正確に理解するために、「ほうふつ」を国語辞典で調べました。次の【国語辞典に載っていた意味】を読むと、6段落に「ほうふつとさせる」と同じような内容を表す別の表現がいくつかあることに気が付きました。【国語辞典に載っていた意味】を参考にして、それらの表現のうちどれか一つを6段落の中から抜き出しなさい。

【国語辞典に載っていた意味】

ほうふつ【彷彿】❶はっきりと脳裏に思い浮かぶこと。よく似ていること。❷おぼろげなさま。はっきりしないさま。

指導改善のポイント

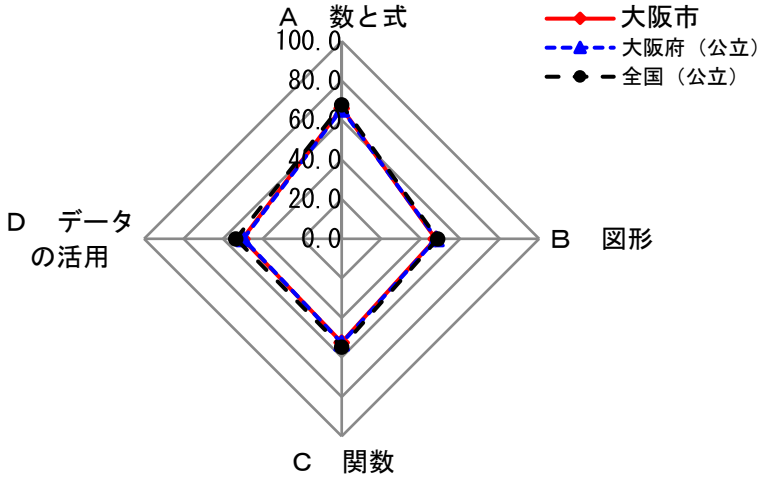
○語句の文脈上の意味を捉えることの指導に当たっては、まず、語句の辞書的な意味を踏まえた上で、文脈における意味を捉えることが大切である。例えば、語句を国語辞典で調べ、本文中ではどの意味で用いられているかを確認し、実際に使うことで語感を磨き語彙を豊かにすることができる。

教科に関する調査結果【中学校数学】

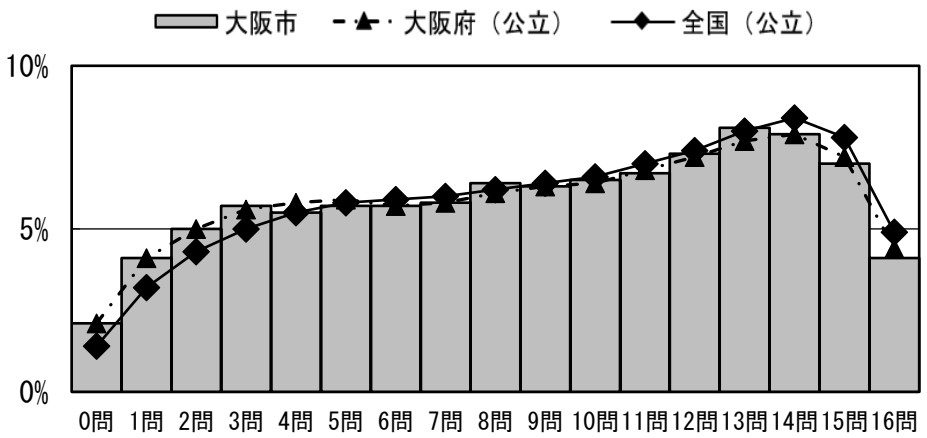
	平均正答数	平均正答率(%)	平均無解答率(%)	中央値	標準偏差	最頻値
大阪市	8.8	55	11.4	9.0	4.5	13問
全国(公立)	9.1	57.0	10.4	10.0	4.5	14問

＜分類・区分別集計結果＞

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)	
			大阪市	全国(公立)
学習指導要領の領域	A 数と式	5	66.1	67.8
	B 図形	4	47.6	48.7
	C 関数	3	52.5	54.8
	D データの活用	4	50.2	53.5
評価の観点	知識・技能	12	61.1	63.0
	思考・判断・表現	4	36.5	39.1
問題形式	選択式	3	56.1	59.3
	短答式	9	62.7	64.2
	記述式	4	36.5	39.1



＜中学校数学の生徒の正答数分布グラフ＞



分析のポイント（成果）

○同類項の意味を理解することについて、成果が見られた。

具体的な設問例 大問２

○７x＋９－５x＋７x²＋２xから、７xの同類項をすべて書く。

２　下の式で、$7x$ の同類項をすべて書きなさい。

$$7x+9-5x+7x^2+2x$$

解答の分析　無解答率　2.9%〔全国（公立）2.2%〕

正答	－5xと2xまたは7xと－5xと2x … 70.6%
誤答	❶ 5xと2xまたは7xと5xと2x … 7.1% ❷ 7x²または7xと7x² … 3.8% ❸ 正答に7x²を加えて解答したもの … 1.9% ❹ 7x … 0.4% その他の誤答 … 13.2%

「－5x」の項を「5x」と符号が正と捉え解答した生徒や、問題の意味を誤って捉え7xの同類項を示さず、同類項をまとめて式を簡単にして「7x²＋4x ＋9」と解答をした生徒が考えられる。

正答率(%)	大阪市	全国	対全国比
大問2	70.6	70.5	1.001

学習指導のポイント

○指導に当たっては、同類項の意味を正しく理解し、各項を係数や文字の種類、次数などに着目して分類できるようにすることが大切である。また、式のもつ意味を考えたり、言葉と式を連動させて捉えたりすることでさらに学習が深まると考えられる。

教科に関する調査結果【中学校数学】

分析のポイント（課題①）

○数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかを見ることに課題が見られた。

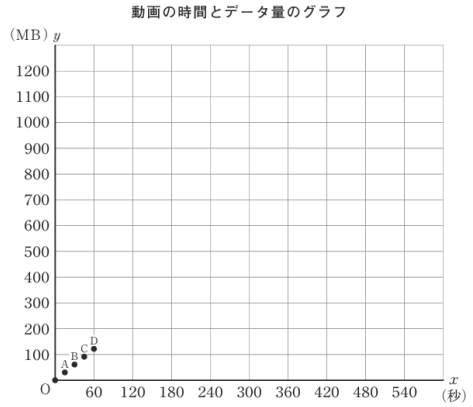
具体的な設問例 大問７（２）

○データ量が１０００ＭＢになるときの動画の時間がおよそ何秒になるかを求める方法を説明する。

（２）光希さんは、1000 MB のデータ量で撮影できる動画の時間を調べるために、前ページの**調べた結果**を下のグラフに表しました。

動画の時間とデータ量のグラフにおいて、原点Ｏから点Ｄまでの点が一直線上にあるとし、動画の時間を長くしても、動画の時間とデータ量の値の組を座標とする点が同じ直線上にあると考えます。

このとき、データ量が 1000 MB になるときの動画の時間はおよそ何秒になるかを求める方法を、x 座標や y 座標、x の値や y の値など、x や y を使って説明しなさい。ただし、実際に時間がおよそ何秒になるかを求める必要はありません。



誤答としては、グラフや式から一次関数と見なせていない解答が見られる。
また、一次関数とみなすことはできていても、そこからy座標が1000のときのx座標を読むことに繋がっていないと考えられる。

正答率(%)	大阪市	全国（公立）	対全国比
大問7(2)	30.8	33.9	0.909

解答の分析　無解答率　41.7%〔全国（公立）39.6%〕

正答の条件	グラフ・表・式のいずれかについて、条件に基づいてxやyを使って記述しているもの

指導改善のポイント

○二つの数量の関係を比例と仮定して考えられるようにすることや、問題解決の見通しを立てる場面においてグラフを活用したり、表や式を用いて考えたりして、自分の考えた解決の方法を書くだけではなく、ペアやグループで交流し説明できるような場面を取り入れることが大切である。

教科に関する調査結果【中学校数学】

分析のポイント（課題②）

○データの傾向を的確に捉え、判断の理由を度数分布多角形の特徴をもとにデータの分布の傾向を読み取り説明することに課題が見られた。

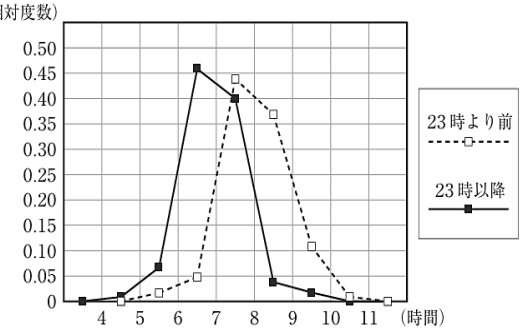
具体的な設問例 大問９（3）

○「就寝時刻が２３時より前の生徒と比べて、２３時以降の生徒の方が睡眠時間が短い傾向にある」と主張できる理由を、「悠真さんが調べたこと」の二つの度数分布多角形の形と位置を比較して説明する。

（3）二人は、睡眠時間の特徴をさらに知りたいと思い、全校生徒を次のように分け、睡眠時間の分布の傾向を調べることにしました。

悠真さんが調べたこと

就寝時刻が23時より前の生徒･･･152人
就寝時刻が23時以降の生徒･････148人



悠真さんが調べたことの２つの度数分布多角形を比較すると、「就寝時刻が23時より前の生徒と比べて、23時以降の生徒の方が睡眠時間が短い傾向にある」と主張することができます。そのように主張することができる理由を、悠真さんが調べたことの２つの度数分布多角形の形と位置を比較して説明します。前ページの桃音さんのまとめを参考にして、下の説明を完成しなさい。

説明

したがって、就寝時刻が23時より前の生徒と比べて、23時以降の生徒の方が睡眠時間が短い傾向にある。

正答率(%)	大阪市	全国（公立）	対全国比
大問9(3)	28.3	31.9	0.887

解答の分析

無解答率 32.1%〔全国（公立）28.9%〕

正答の条件	次の(a),(b)について記述しているもの。 (a) 就寝時刻が23時より前の生徒の度数分布多角形と就寝時刻が23時以降の度数分布多角形が同じような形であること。 (b) 就寝時刻が23時より前の生徒の度数分布多角形よりも就寝時刻が23時以降の度数分布多角形の方が左側にあること。

20.6%の生徒が(a)のみの記述にとどまっている。

指導改善のポイント

○データの分布の傾向を比較してその特徴を捉え、数学的な表現を用いて説明する活動が求められる。最大値や最小値、度数分布多角形の山の頂点の位置などの違いを正しく捉え、判断の理由を説明できるようにすることが大切である。

教科に関する調査結果【中学校英語】

＜IRTスコア集計値＞

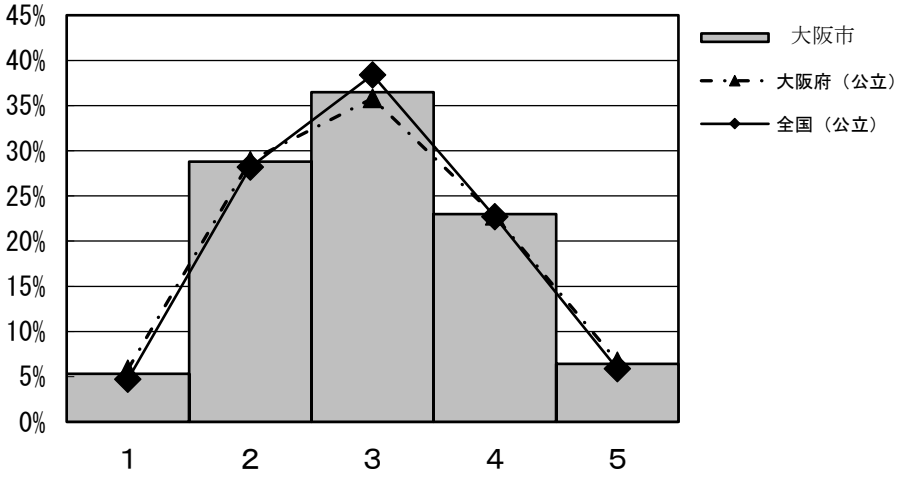
	平均IRTスコア ※「話すこと」を除く 3技能スコア	標準偏差
大阪市	499	117.3
大阪府	498	119.8
全国（公立）	499	113.7

＜技能別平均正答率　集計結果＞（※公開問題及び共通問題のみ）

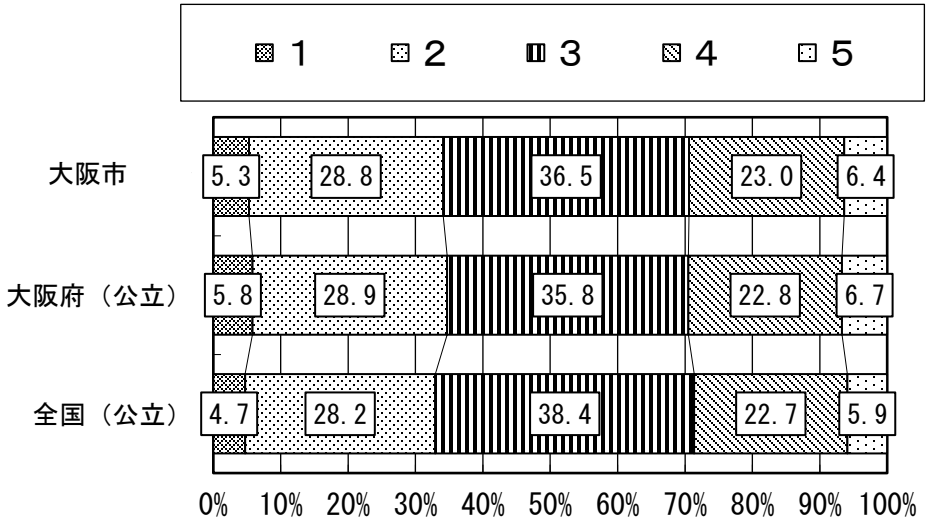
区分	対象問題数（問）	平均正答率（%）	
		大阪市	全国（公立）
聞くこと	2	58.2	57.9
読むこと	2	54.8	57.4
書くこと	3	47.2	46.5

IRTバンド	生徒数	割合(%)		
	大阪市	大阪市	大阪府	全国（公立）
5	970	6.4	6.7	5.9
4	3,484	23.0	22.8	22.7
3	5,527	36.5	35.8	38.4
2	4,355	28.8	28.9	28.2
1	805	5.3	5.8	4.7

＜IRTバンド分布グラフ＞



＜IRTバンド分布比較＞



教科に関する調査結果【中学校英語】

分析のポイント（成果）

○音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用することについて成果が見られた。

具体的な設問例 大問11

○与えられた情報に基づいて、留学生の昨日の出来事を説明する英文を書く。

留学生のメイ(Mei)に昨日の出来事について質問し、分かったことを下の【表】にまとめました。
【表】を見て、例を参考にしながら、①メイが行った場所、②メイがしたことを、それぞれ英文１文で書きなさい。

【表】

例	メイが起きた時刻	7時(seven)
①	メイが行った場所	公園(the park)
②	メイがしたこと	テニス(tennis)

＜解答欄＞ ※半角で入力してください

例	Mei got up at seven.
①	
②	

正答例
① Mei went to the park.
She went to the park.
② Mei played tennis.
She played tennis.

解答の分析

問題番号	正答率（大阪市）	正答率（全国・公立）	対全国比
11①	60.7	58.9	1.031
11②	52.8	52.7	1.002

・11①では、不規則動詞の過去形を用いて、正しい語順で書けている生徒は60.7%であった。
（大文字・小文字の書き分けなどに誤りがあるもの、余分な語や抜けている語などの誤りがあるものを含む。）

・11②では、規則動詞の過去形を用いて、正しい語順で書けている生徒は52.8%であった。
（大文字・小文字の書き分けなどに誤りがあるもの、余分な語などの誤りがあるものを含む。）

学習指導のポイント

○場面や状況に応じて活用すべき文法事項などを判断し、既習の文法事項などを適切に使い分けて表現できるようにすることが重要である。
○特定の場面を設定し、適切な表現を選択して書く活動や、I、you以外の主語を用いて書く指導などを継続して行うことで、より正確に書く力を育成していくことが大切である。

教科に関する調査結果【中学校英語】

分析のポイント（課題①）

○社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉えることに課題が見られた。

具体的な設問例 大問10（1）

○インターネットの使用に関する文章を読み、書き手が最も伝えたいことを選択する。

（1）【まいこが書いた文章】を読み、まいこが最も伝えたいことを、<解答欄>の1から4までの中から1つ選びなさい。

【まいこが書いた文章】

Today, many junior high school students use the internet to play games. However, I think we should use the internet for learning more often because it is useful. For example, there are many good videos for learning English. They are easy to understand. Also, there are many good dictionaries on the internet. We can find the meaning of an English word quickly.
Do you think my opinion is good?

→中学生の現状
→まいこが最も伝えたいこと
→インターネットの使用が学習に役立つ具体例

<解答欄>

○ 1 Many junior high school students use the internet to play games.
○ 2 Junior high school students should use the internet for learning more often.
○ 3 There are many good videos for learning English.
○ 4 We can find the meaning of an English word quickly.

解答の分析

	正答率	無解答率
全国（公立）	47.5	0.2
大阪市	45.9	0.2

＜IRTバンドごとの割合（%）＞

	1	2	3	4	5
類型1	15.3	15.0	9.6	1.9	0
類型2	16.0	28.0	36.4	75.9	97.4
類型3	41.4	34.3	22.8	5.3	0.4
類型4	25.8	22.5	31.1	16.8	2.2
無解答	1.5	0.3	0.1	0	0

・IRTバンド1に属する生徒の約4割、IRTバンド2に属する生徒の3割以上が、誤答である解答類型3を選択し、IRTバンド1・2のいずれに属する生徒も、2割以上が解答類型4を、1割以上が解答類型1を選択していた。
⇒「インターネットの使用が学習に役立つ具体例」または「中学生の現状」を、「書き手が最も伝えたいこと」として誤って捉えていると考えられる。

・IRTバンド3に属する生徒は、3割以上が解答類型4を選択していた。
⇒文章における「書き手が最も伝えたいこと」と「その具体例」との関係を十分に捉えられていない可能性がある。

指導改善のポイント

○文章は「書き手が最も伝えたいこと（主張）」と、例示・経験・比較などの「主張を支える理由」で構成されていることを捉えることが大切である。
○意見を述べる表現や例示のための表現などに着目し、文章を読んだ後に「書き手が最も伝えたいことは何か」「なぜそう考えたのか」を話し合う活動を通して、要点を捉えられるように指導することが重要である。

教科に関する調査結果【中学校英語】

分析のポイント（課題②）

〇社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことに課題が見られた。

具体的な設問例 大問10（2）

〇インターネットの使用に関して読んだことについて、考えとその理由を書く。

（２）まいこの質問に対する「あなたの考え」と「なぜそう考えるのか」を、英語で書きなさい。
【まいこが書いた文章】にある表現を使って書いてもかまいません。

＜解答欄＞ ※半角で入力してください

Do you think my opinion is good?

あなたの考え

なぜそう考えるのか

【正答の条件】
次の条件を満たして解答している。
条件①　書き手の意見に対する自分の考えを書いている。
条件②　条件①の理由を書いている。

＜解答類型１（条件①、②を満たしている）の例＞
・Your opinion is good. Students can get a lot of information for learning on the internet.

＜解答類型２（文法事項などに誤りがあるが条件①、②を満たしている）の例＞
・No, I don't. Because internet sometimes making mistakes.（動詞の活用の誤り）

解答の分析

	正答率	無解答率
全国（公立）	27.8	14.6
大阪市	28.0	14.5

【誤答】
＜解答類型３（条件①を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの）の例＞
・I think your opinion is good. I think students will find is very good.
・No, I don't. The internet is not to play games.

＜IRTバンドごとの割合（%）＞

	1	2	3	4	5
類型1◎	0.2	4.4	18	45.4	75.6
類型2○	0.4	1.5	4.4	9.2	10.5
類型3	16.6	25.6	46.1	40.7	13.8
類型4	10.7	13.5	8.5	1.4	0
類型5	2.4	2.4	2.5	1.3	0.1
類型6	0.2	0.4	0.2	0.1	0
類型7	17.1	17.6	9.1	1.3	0
上記以外	10.3	5.6	0.9	0.1	0
無解答	42.0	29.1	10.2	0.7	0

・IRTバンド1に属する生徒の4割以上、およびIRTバンド2に属する生徒の約3割が無解答である。
⇒「文章の内容が読み取れず、書くべきことが分からなかった」「文章の内容は読み取ることができたが、何を書いたらよいのか思い浮かばなかった」「文章の内容は読み取ることができ、書く内容も思い浮かんだが、英語の表現が分からなかった」などが書くことができなかった要因として考えられる。

・IRTバンド3に属する生徒の4割以上、およびIRTバンド4に属する生徒の約4割が誤答である解答類型3の解答をしている。
⇒自分の考えを支える理由を書くことに課題があると考えられる。

指導改善のポイント

〇文章を読んで要点を確認した後、自分の考えをキーワードとしてメモや思考ツールに整理する活動を行い、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを意識し、読み手に伝わるように自分の考えや感想などを書く活動を取り入れることが大切である。
〇書き手の意見に対する考えとその理由を話した後に、その内容を１～２文程度で書くことの活動を繰り返すことが重要である。

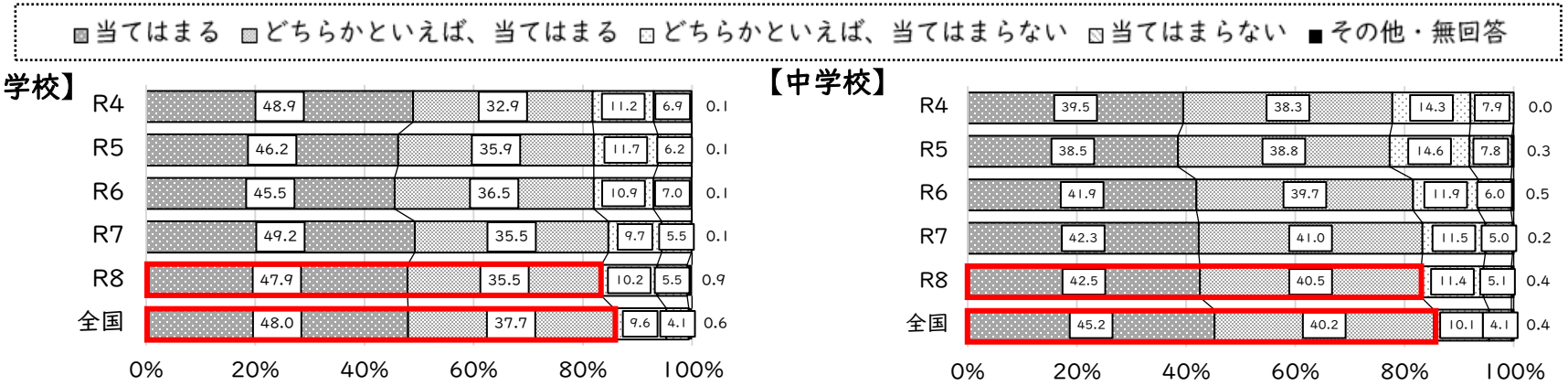
3. 質問調査結果

大阪市教育振興基本計画における指標①

安全・安心な教育の推進（基本的な方向①）

児童生徒質問項目〔15〕
「学校に行くのは楽しいと思いますか。」
令和11年度末目標値　肯定的回答の割合　小学校87.0%　中学校87.0%

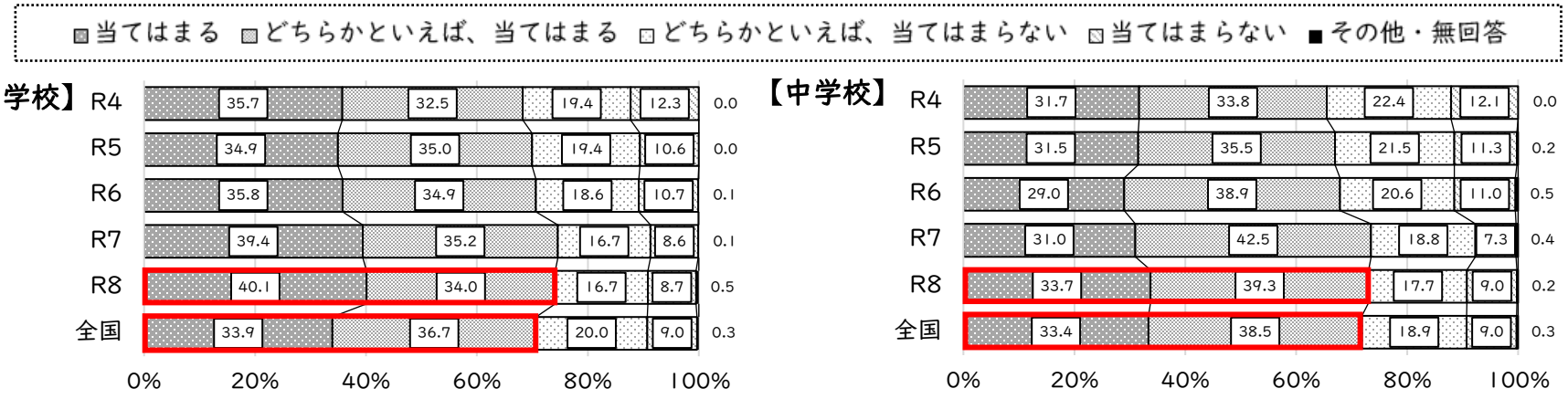
肯定的に回答した児童生徒の割合は、昨年度と比較すると、小学校ではやや減少し、全国と比較すると、小中学校ともにやや下回っています。



安全・安心な教育の推進（基本的な方向①）

児童生徒質問項目〔13〕
「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」
令和11年度末目標値　肯定的回答の割合　小学校80.0%　中学校80.0%

肯定的に回答した児童生徒の割合は、昨年度と比較すると、小中学校ともに同等であり、全国と比較すると、小中学校ともにやや上回っています。

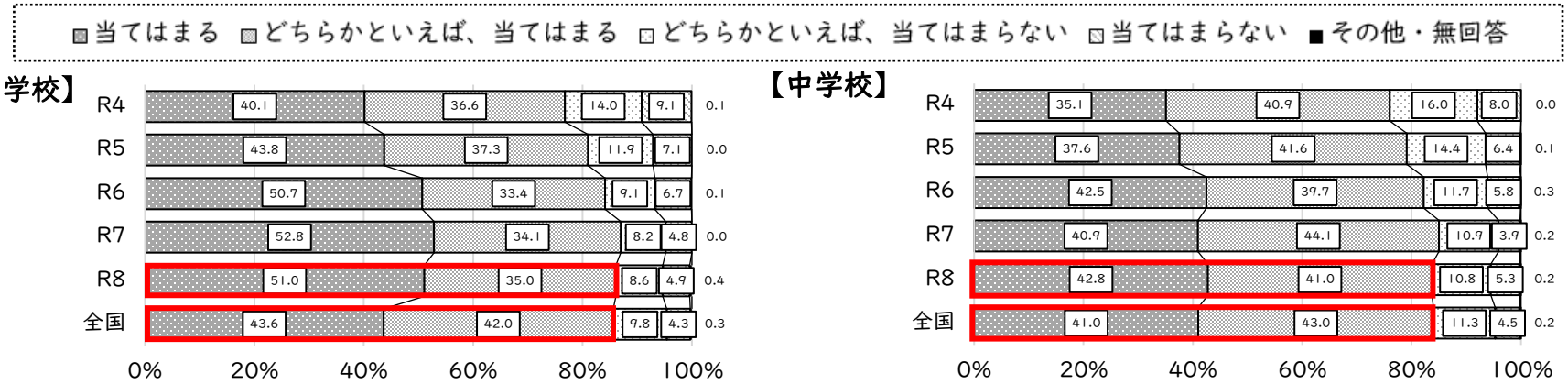


大阪市教育振興基本計画における指標②

豊かな心の育成（基本的な方向②）

児童生徒質問項目〔8〕
「自分には、よいところがあると思いますか。」
令和11年度末目標値　肯定的回答の割合　小学校88.0%　中学校88.0%

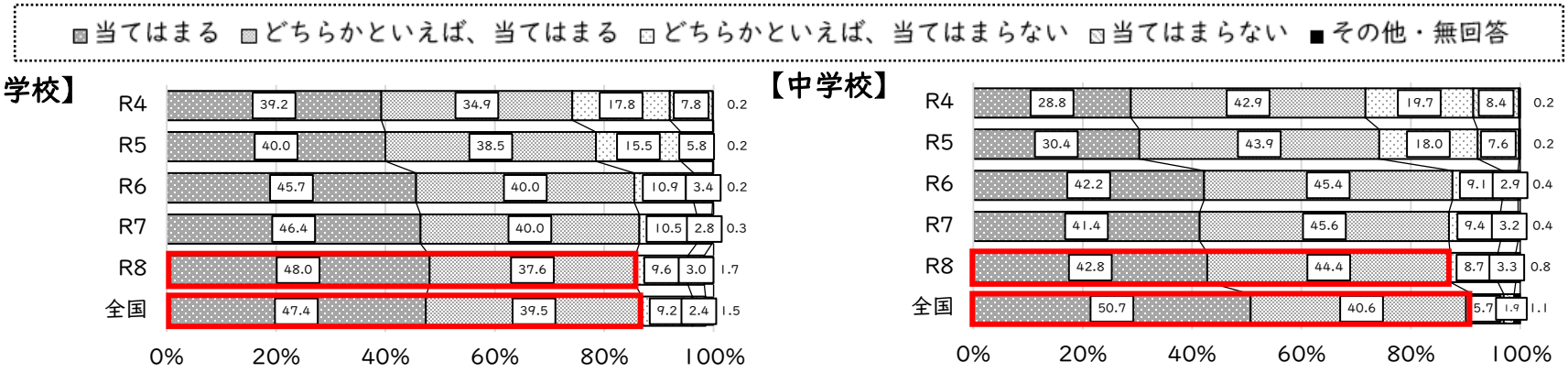
肯定的に回答した児童生徒の割合は、昨年度と比較すると、小中学校ともにやや減少し、全国と比較すると、小中学校ともに同等でした。



豊かな心の育成（基本的な方向②）

児童生徒質問項目〔51〕
「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか。」
令和11年度末目標値　肯定的回答の割合　小学校90.0%　中学校90.0%

肯定的に回答した児童生徒の割合は、昨年度と比較すると、小学校でやや減少し、全国と比較すると、小中学校ともにやや下回っています。

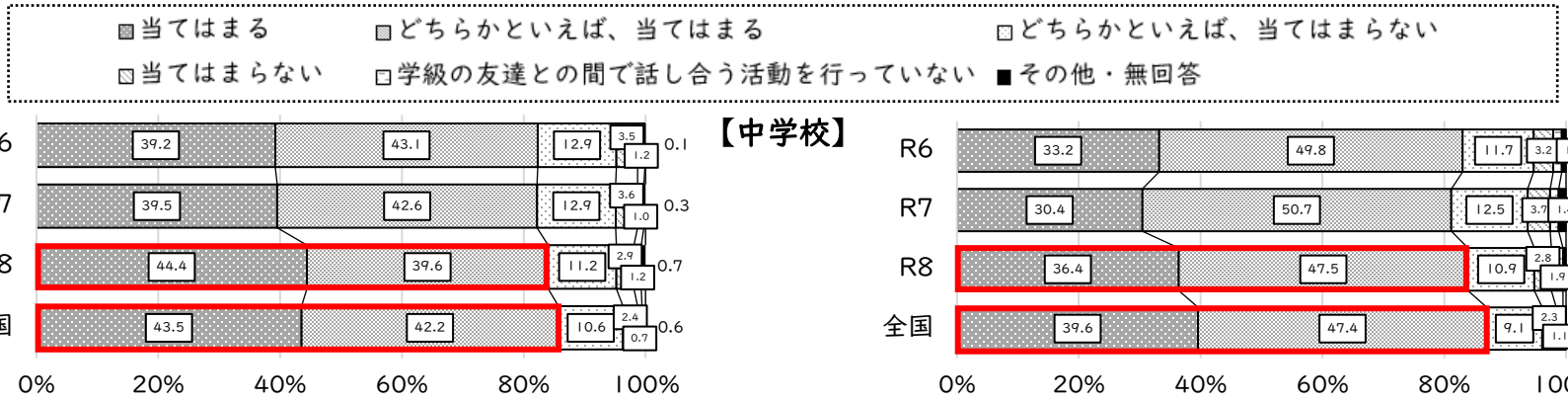


大阪市教育振興基本計画における指標③

誰一人取り残さない学力の向上（基本的な方向④）

児童生徒質問項目〔42〕　※R4、R5は該当する質問項目がありませんでした。
「学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたり（広げたり）することができていますか。」 令和11年度末目標値 肯定的回答の割合 小学校85.0%　中学校85.0%

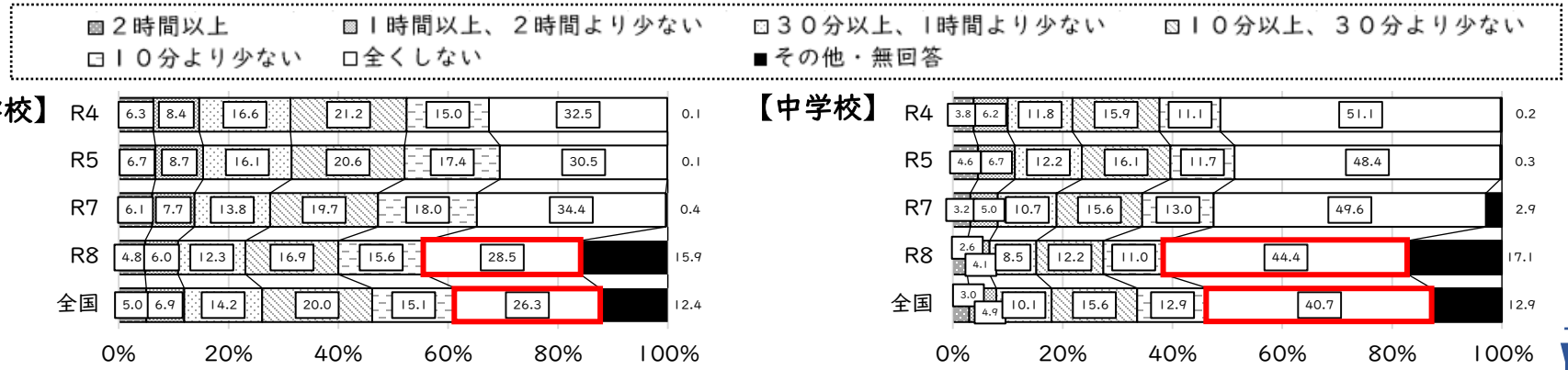
肯定的に回答した児童生徒の割合は、昨年度と比較すると、小中学校ともにやや増加し、全国と比較すると、小中学校ともにやや下回っています。



生涯学習の支援（基本的な方向⑧）

児童生徒質問項目〔26〕　※R6は該当する質問項目がありませんでした。
「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）。」 令和11年度末目標値 「読書を全くしない」と回答した割合 小学校29.0%以下　中学校42.0%以下

学校の授業時間以外に、普段、読書を「全くしない」と回答した児童生徒の割合は、昨年度と比較すると、小中学校ともに減少していますが、全国と比較すると小中学校ともにやや上回っています。

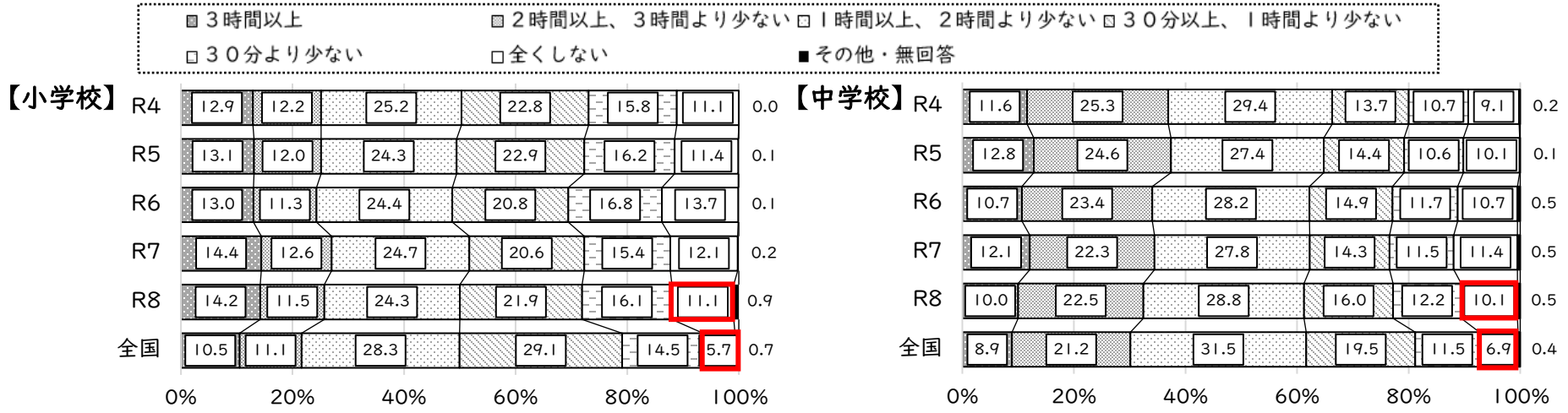


学校外での過ごし方①

学校外での過ごし方

児童生徒質問項目〔23〕
「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）。」

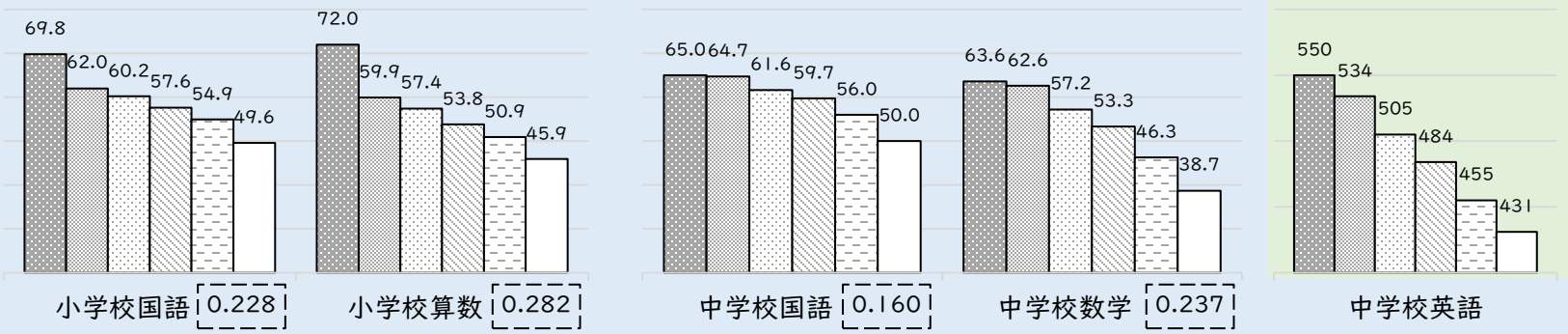
・平日において、学校の授業時間以外の勉強を「全くしない」と回答した児童生徒の割合は、昨年度と比較すると、小中学校ともにやや減少し、全国と比較すると、小学校では上回り、中学校ではやや上回っています。
・平日において、学校の授業時間以外の勉強をする時間が長い児童生徒ほど、小中学校ともにいずれの教科でも平均正答率（中学校英語は平均IRTスコア）が高い傾向が見られます。



クロス集計

【選択肢ごとの教科の平均正答率（中学校英語は平均IRTスコア）】

※〔　〕内の数値は相関係数を示しています。
※中学校英語においては、文部科学省より生徒個人のIRTスコアが提供されていないため、相関係数を算出することができません。

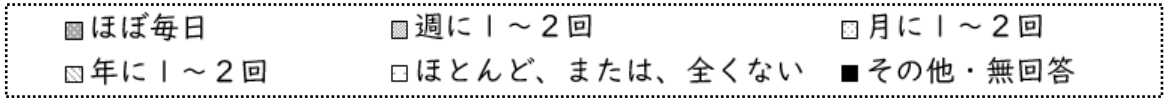


学校外での過ごし方②

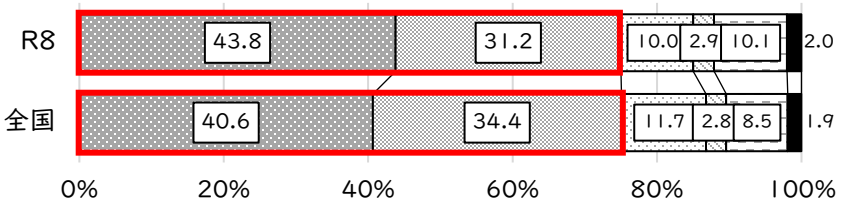
学校外での過ごし方

児童生徒質問項目〔6〕【新規】
「学校の勉強のことについて、あなたの親や家族は、どれくらいあなたと話しますか。」

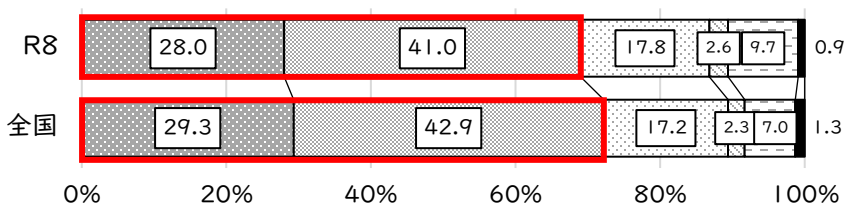
・学校の勉強のことを親や家族と週に１回以上話していると回答した児童生徒の割合は、全国と比較すると、中学校ではやや下回っています。
・学校の勉強のことを親や家族と話していると回答した児童生徒ほど、小中学校ともに普段（月曜日から金曜日）の授業時間以外の学習時間が長い傾向があります。



【小学校】



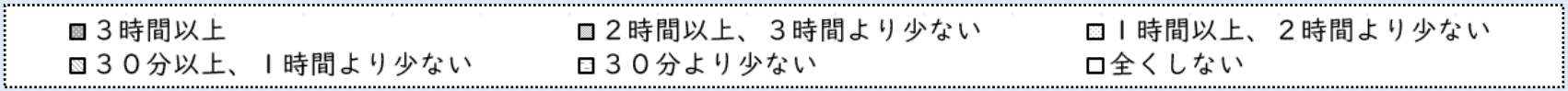
【中学校】



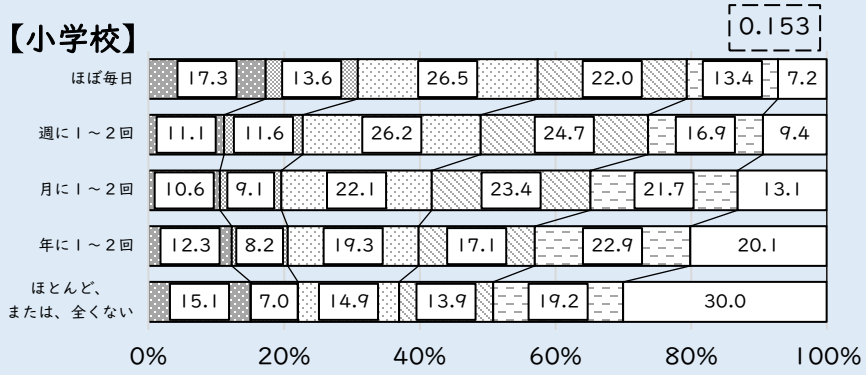
クロス集計（児童生徒）

［学校の勉強のことを親や家族と話すこと］
×［普段（月曜日から金曜日）の授業時間以外の学習時間］

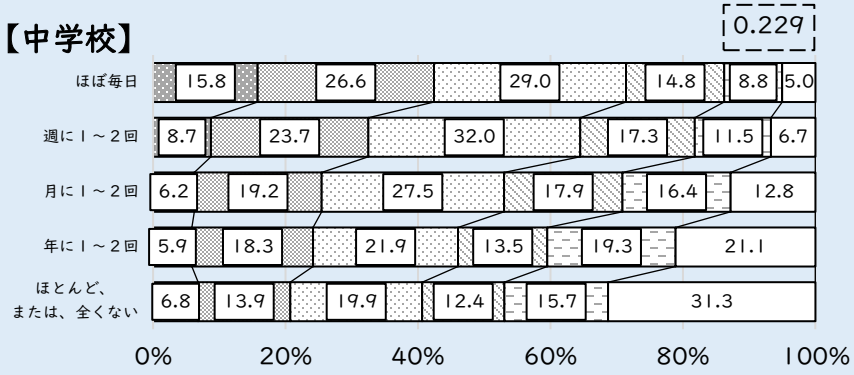
※［　　］内の数値は相関係数を示しています。



【小学校】



【中学校】

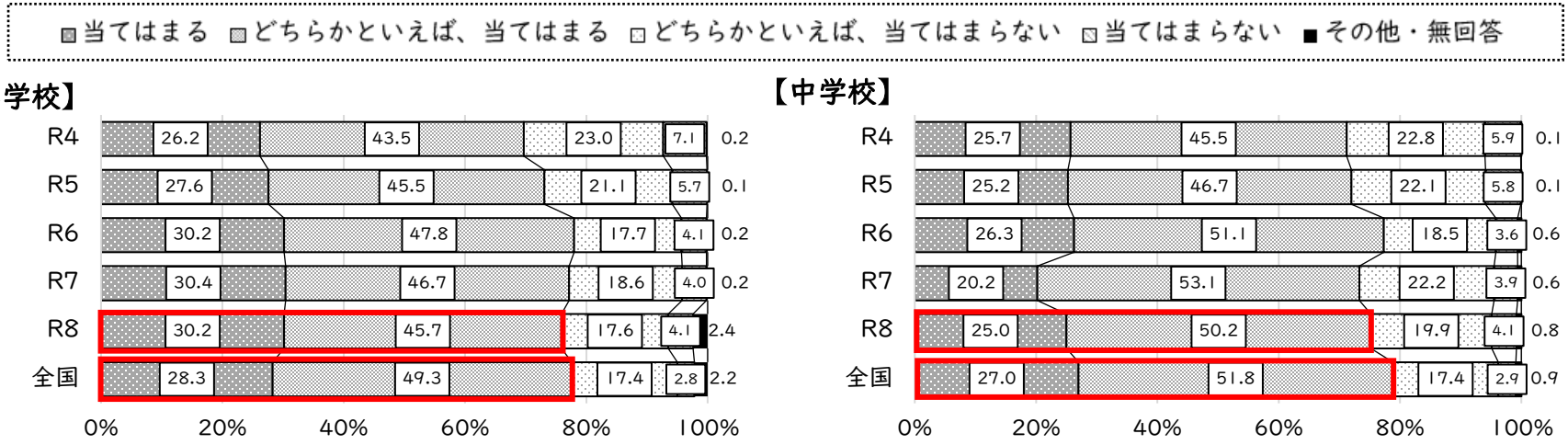


学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動の取組①

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

児童生徒質問項目〔39〕
「5年生まで（1、2年生のとき）に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」

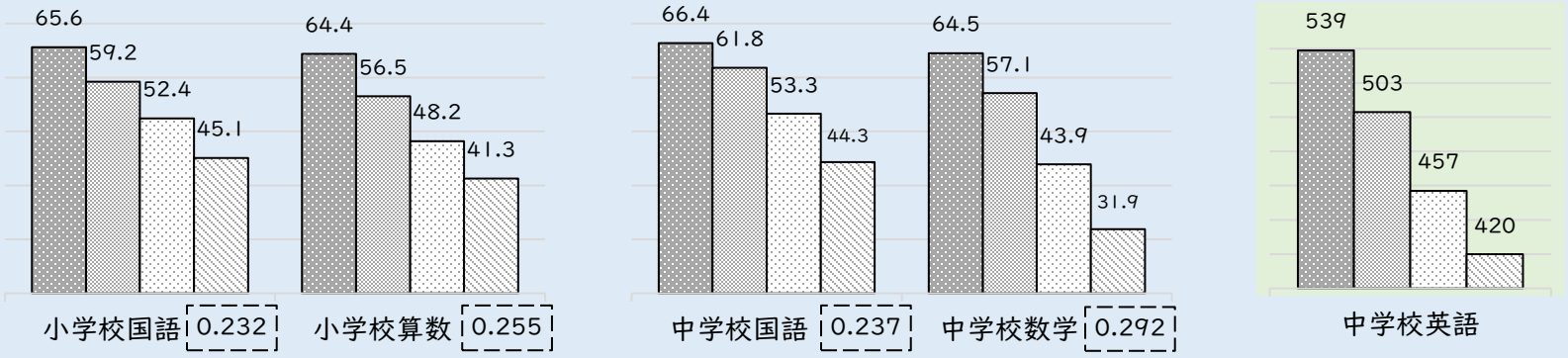
・肯定的に回答した児童生徒の割合は、昨年度と比較すると、小学校でやや減少し、中学校でやや増加し、全国と比較すると、小中学校ともにやや下回っています。
・肯定的に回答している児童生徒ほど、小中学校ともにいずれの教科でも平均正答率（中学校英語は平均IRTスコア）が高い傾向が見られます。



クロス集計

【選択肢ごとの教科の平均正答率（中学校英語は平均IRTスコア）】

※〔　〕内の数値は相関係数を示しています。
※中学校英語においては、文部科学省より生徒個人のIRTスコアが提供されていないため、相関係数を算出することができません。

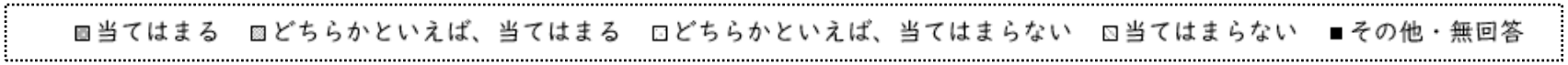


学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動の取組②

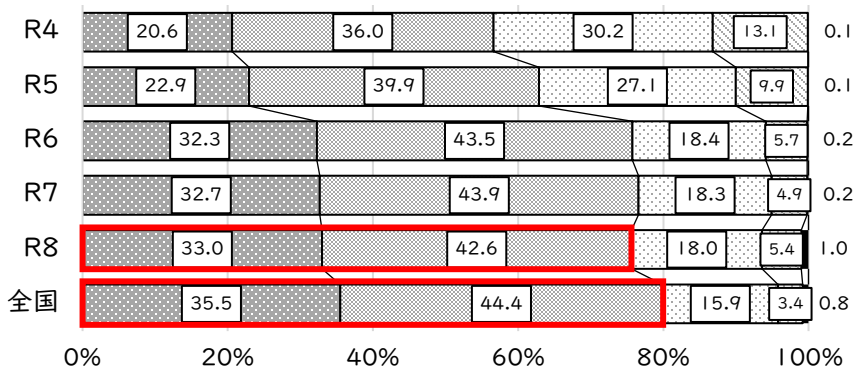
総合的な学習の時間の充実

児童生徒質問項目〔47〕
「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。」

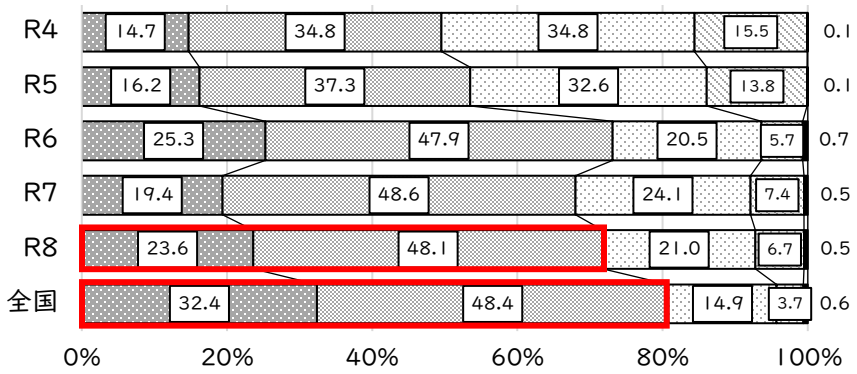
・肯定的に回答した児童生徒の割合は、昨年度と比較すると、小学校ではやや減少し、中学校ではやや増加し、全国と比較すると、小中学校ともに下回っています。
・肯定的に回答している児童生徒ほど、小中学校ともにいずれの教科でも平均正答率（中学校英語は平均IRTスコア）が高い傾向が見られます。



【小学校】



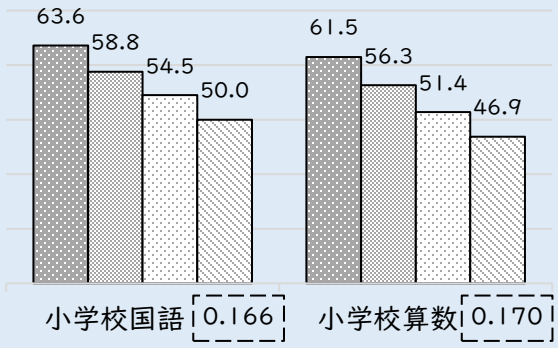
【中学校】

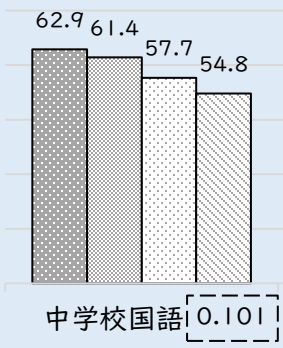


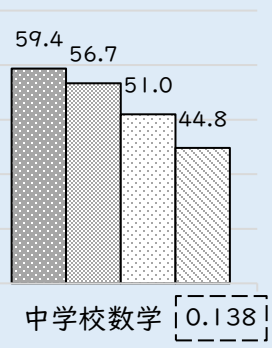
クロス集計

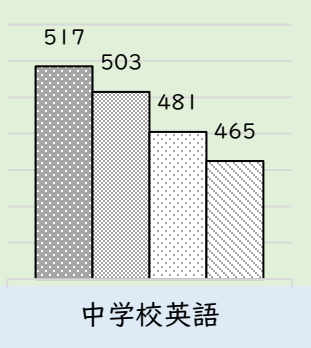
【選択肢ごとの教科の平均正答率（中学校英語は平均IRTスコア）】

※［　］内の数値は相関係数を示しています。
※中学校英語においては、文部科学省より生徒個人のIRTスコアが提供されていないため、相関係数を算出することができません。









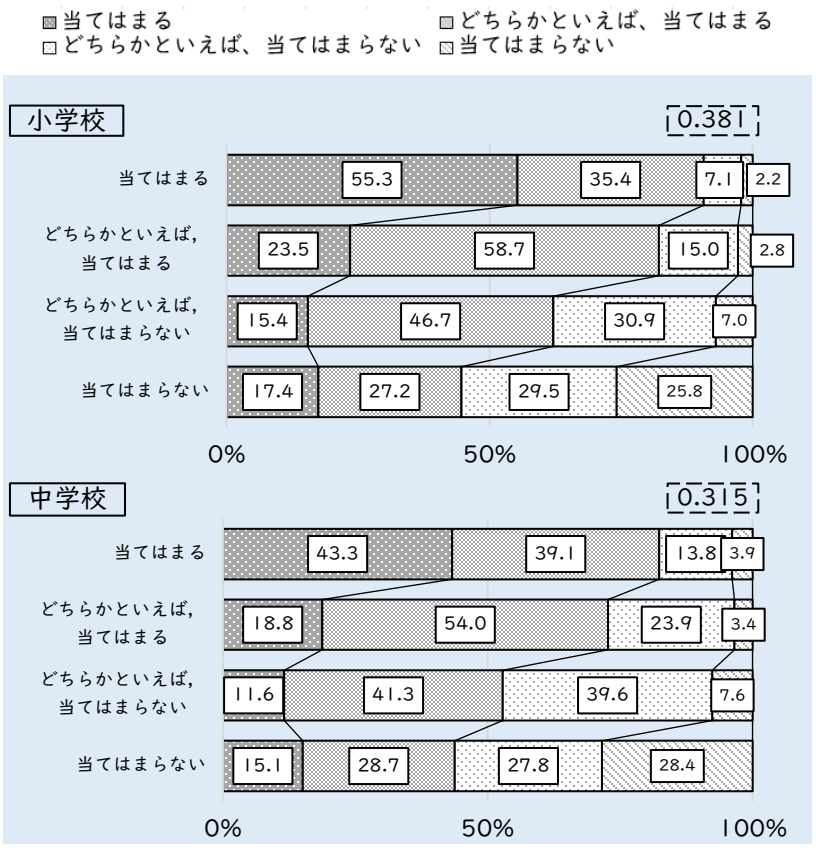
学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動の取組③

※［　］内の数値は相関係数を示しています。

クロス集計（児童生徒）　［総合的な学習の時間の充実］×［挑戦心］

児童生徒質問項目〔47〕
「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。」

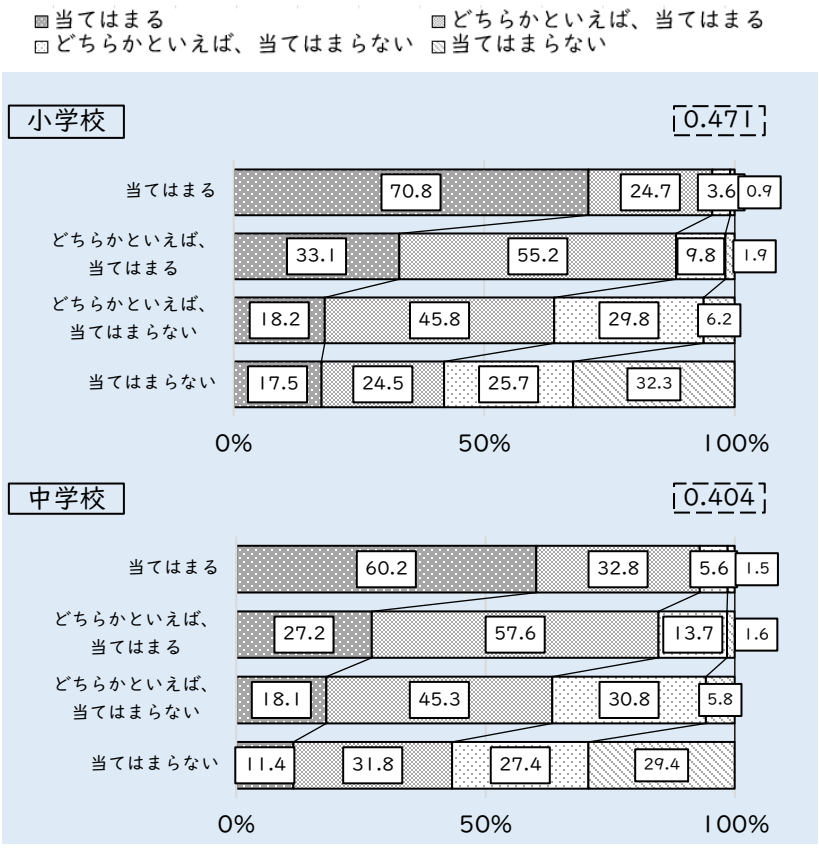
児童生徒質問項目〔18-2〕【新規】
「課題が難しくなると、さらに努力していますか。」



クロス集計（児童生徒）　［学びの主体的な調整］×［好奇心］

児童生徒質問項目〔43〕
「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。」

児童生徒質問項目〔19-2〕【新規】
「新しいことを学ぶのは好きですか。」



「総合的な学習の時間における学習活動に取り組むこと」「学びの主体的な調整」に関する質問項目に肯定的に回答する児童生徒ほど、「挑戦心・好奇心」に関する質問項目に肯定的に回答する傾向が見られます。

学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動の取組④

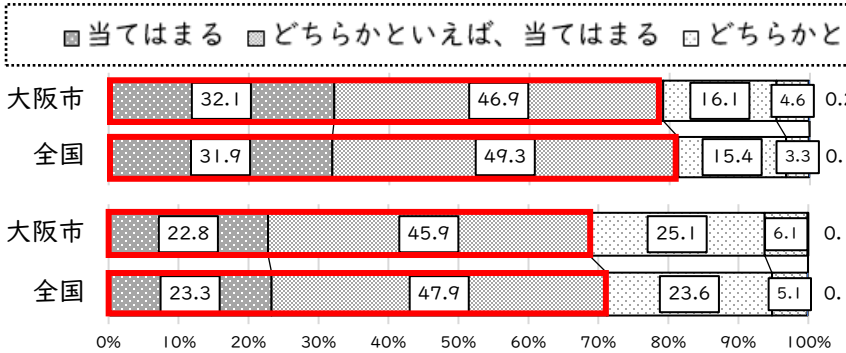
挑戦心

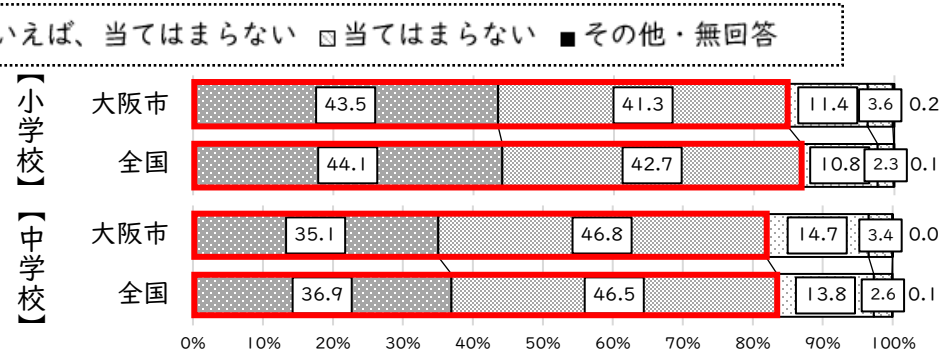
児童生徒質問項目〔18-2〕【新規】
「課題が難しくなると、さらに努力していますか。」

好奇心

児童生徒質問項目〔19-2〕【新規】
「新しいことを学ぶのは好きですか。」

・肯定的に回答する児童生徒の割合は、全国と比較すると、小中学校ともにやや下回っています。
・肯定的に回答している児童生徒ほど、小中学校ともにいずれの教科でも平均正答率が高い傾向が見られます。

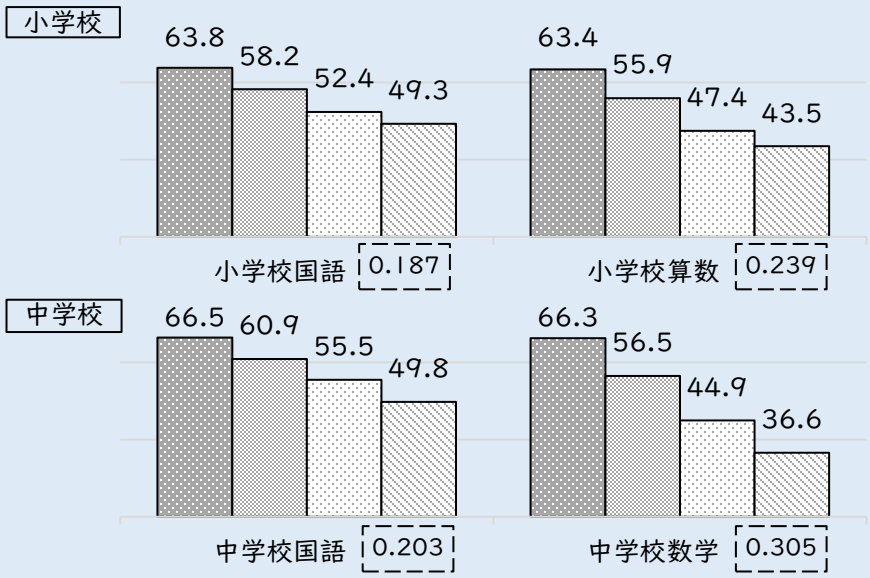




クロス集計

【選択肢ごとの教科の平均正答率】

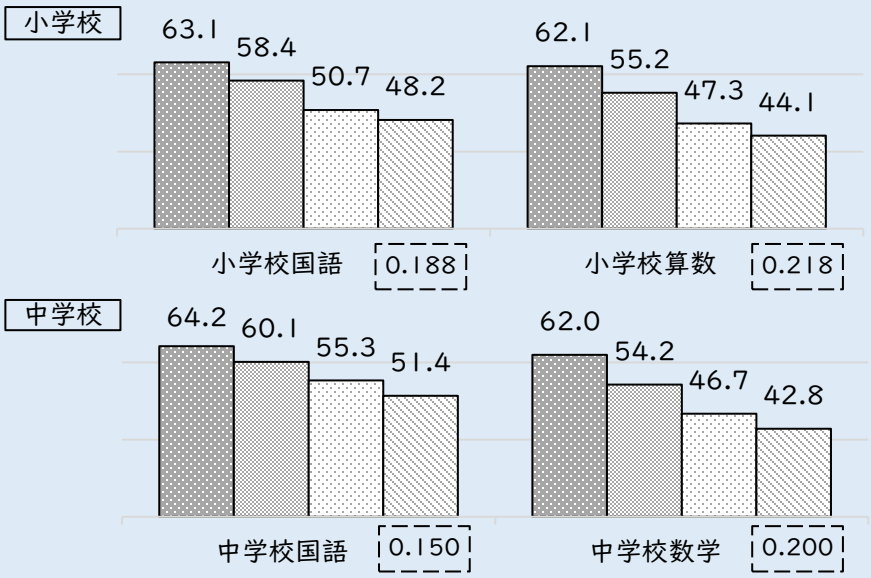
※[　]内の数値は相関係数を示しています。



クロス集計

【選択肢ごとの教科の平均正答率】

※[　]内の数値は相関係数を示しています。



ICTを活用した学習状況①

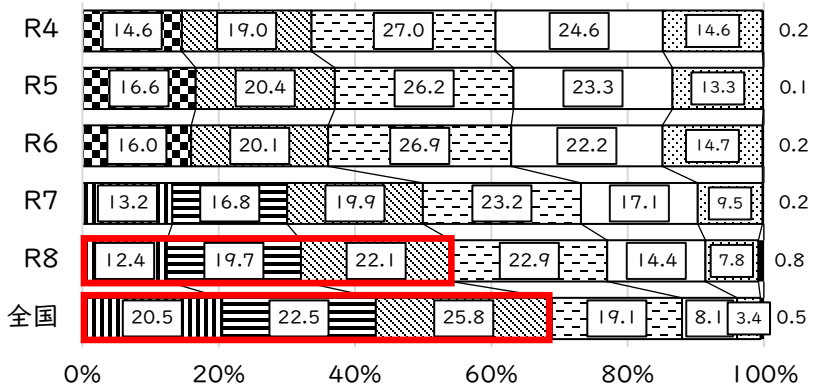
ICTを活用した学習状況

児童生徒質問項目〔35〕
「5年生まで（1、2年生のとき）に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。」
※R7より「ほぼ毎日」が、「ほぼ毎日（1日に複数回の授業）」「ほぼ毎日（1日1回くらいの授業）」に細分化

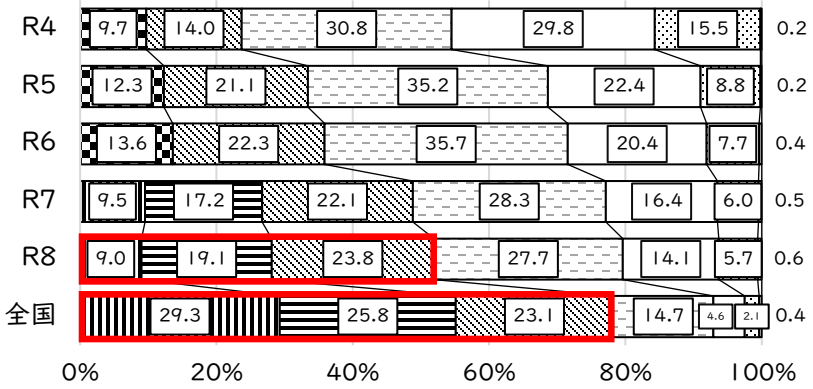
PC・タブレットなどのICT機器を「週3回以上」よりも高い頻度で使用すると回答した児童生徒の割合は、昨年度と比較すると、小中学校ともにやや増加し、全国と比較すると、小中学校ともに下回っています。

ほぼ毎日　ほぼ毎日（1日に複数の授業で活用）　ほぼ毎日（1日に1回くらいの授業で活用）
週3回以上　週1回以上　月1回以上　月1回未満　その他・無回答

【小学校】

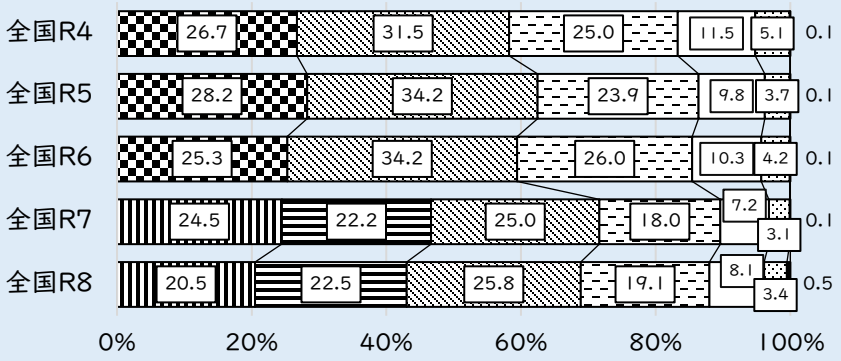


【中学校】

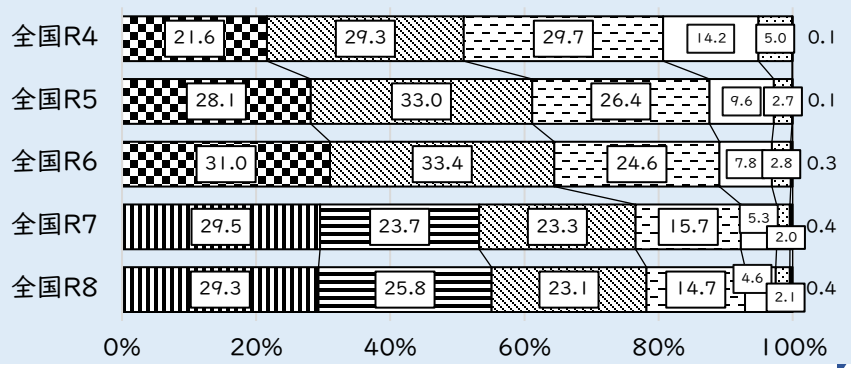


（参考）全国の推移

【小学校】



【中学校】



ICTを活用した学習状況②

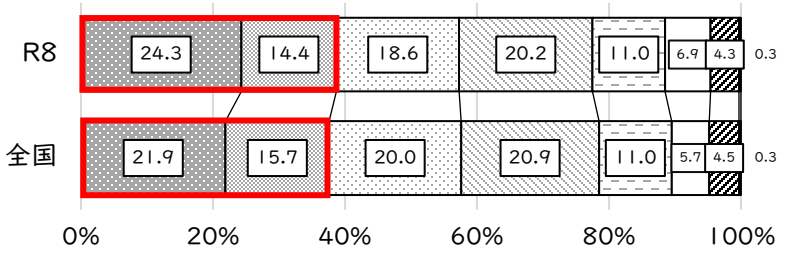
SNSや動画視聴の長さ

児童生徒質問項目〔4〕
「普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビ等（以下、「スマートフォン等」）でSNSや動画視聴などをしますか（スマートフォン等を使って学習する時間やゲームをする時間は除く）。」

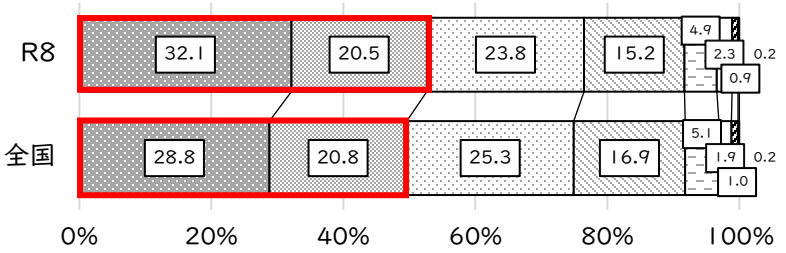
・3時間以上動画視聴などをすると回答した児童生徒は、全国と比べると、小中学校ともにやや上回っています。
・30分以上動画視聴などをすると回答した児童生徒では、小中学校ともにいずれの教科でも、視聴時間が長くなるほど平均正答率（中学校英語は平均IRTスコア）が低い傾向が見られます。

■ 4時間以上　■ 3時間以上、4時間より少ない　□ 2時間以上、3時間より少ない　□ 1時間以上、2時間より少ない
□ 30分以上、1時間より少ない　□ 30分より少ない　▨ スマートフォン等を持っていない　■ その他・無回答

【小学校】



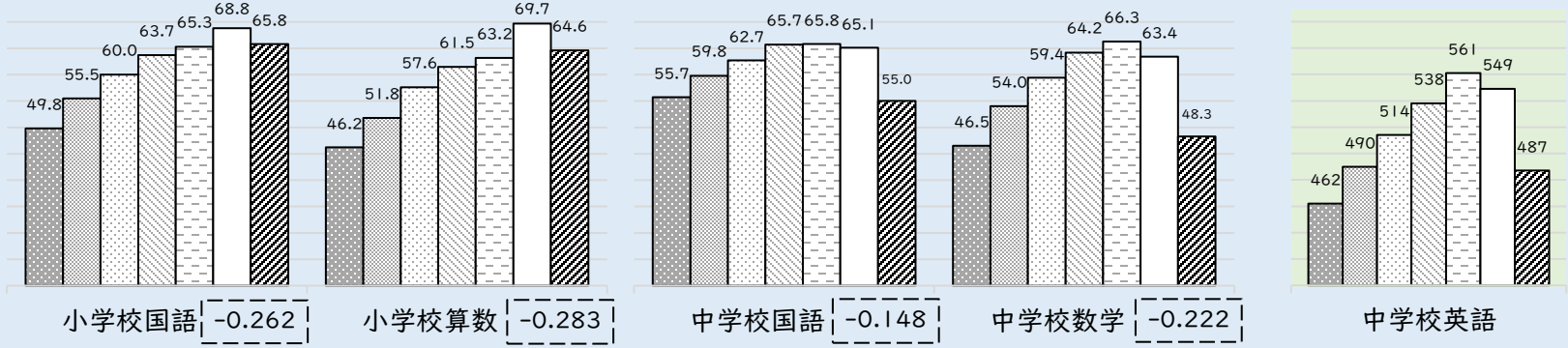
【中学校】



クロス集計

【選択肢ごとの教科の平均正答率（中学校英語は平均IRTスコア）】

※［　］内の数値は相関係数を示しています（相関係数は「スマートフォン等を持っていない」の回答を除外して算出）。
※中学校英語においては、文部科学省より生徒個人のIRTスコアが提供されていないため、相関係数を算出することができません。

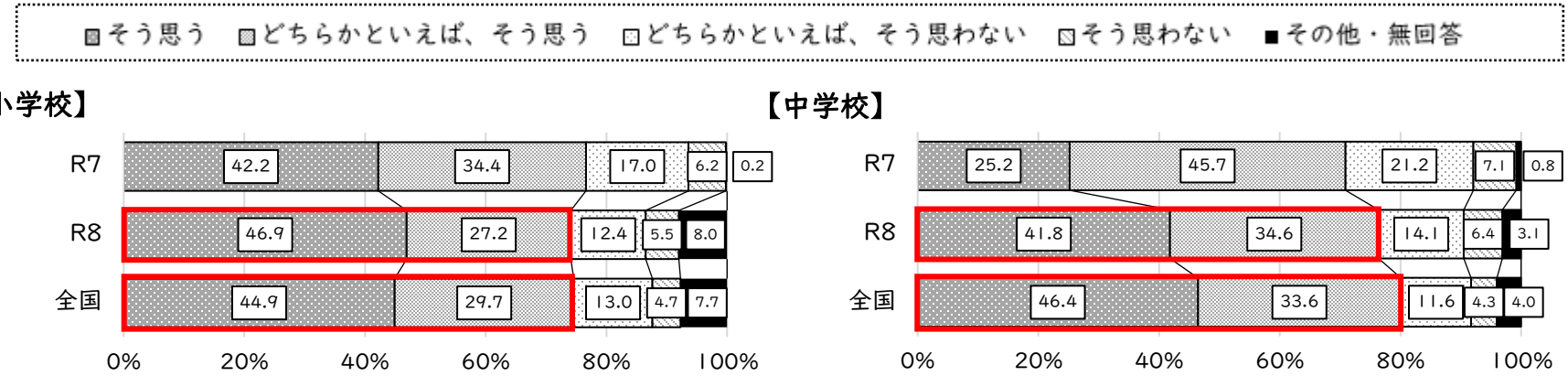


ICTを活用した学習状況③

ICTを活用する自信

児童生徒質問項目〔36-4〕
「あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校での活動でプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか。」

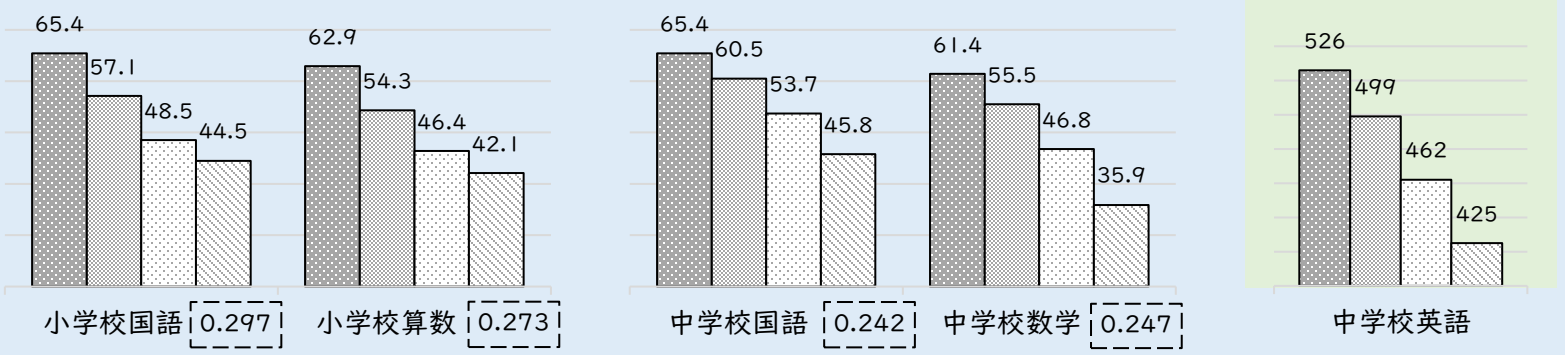
・肯定的に回答した児童生徒の割合は、昨年度と比較すると、小学校ではやや減少し、中学校では増加し、全国と比較すると、中学校ではやや下回っています。
・肯定的に回答している児童生徒ほど、小中学校ともにいずれの教科でも平均正答率（中学校英語は平均IRTスコア）が高い傾向が見られます。



クロス集計

【選択肢ごとの教科の平均正答率（中学校英語は平均IRTスコア）】

※[ ]内の数値は相関係数を示しています。
※中学校英語においては、文部科学省より生徒個人のIRTスコアが提供されていないため、相関係数を算出することができません。



ICTを活用した学習状況④

主体的・対話的で深い学び　×　ＧＩＧＡ

【三重クロス集計】
児童生徒質問項目〔39〕〔36-4〕
［主体的・対話的で深い学び］×［ICT活用の自信］×［各教科の正答率］

主体的・対話的で深い学び　児童生徒質問〔39〕
「5年生まで（1、2年生のとき）に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」

主〇：当てはまる（又は）どちらかといえば、当てはまる
主×：どちらかといえば、当てはまらない（又は）当てはまらない

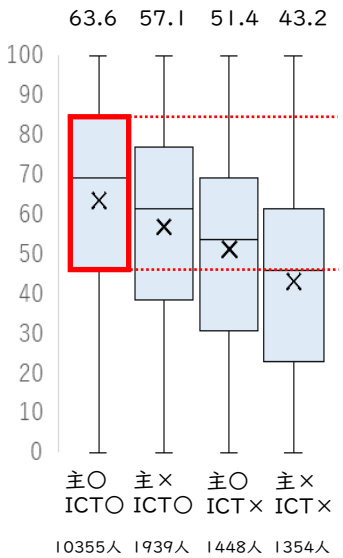
×

ICT活用の自信　児童生徒質問〔36-4〕
「あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校での活動でプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか。」

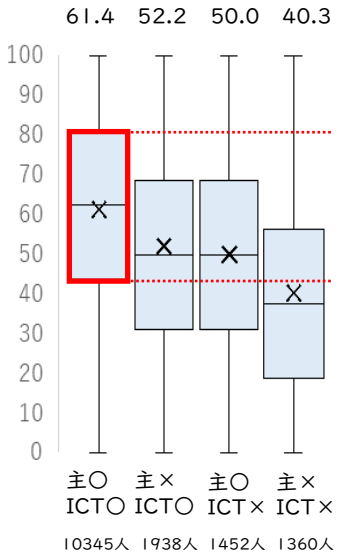
ICT〇：そう思う（又は）どちらかといえば、そう思う
ICT×：どちらかといえば、そう思わない（又は）そう思わない

［各教科の正答率］

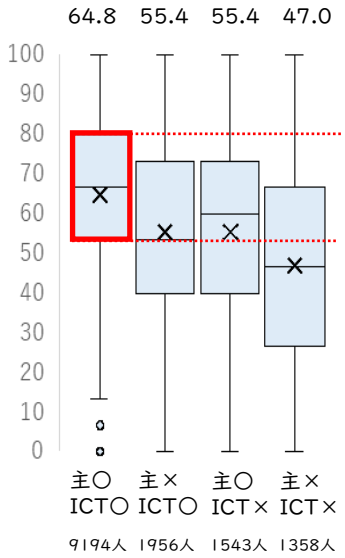
【小学校国語】



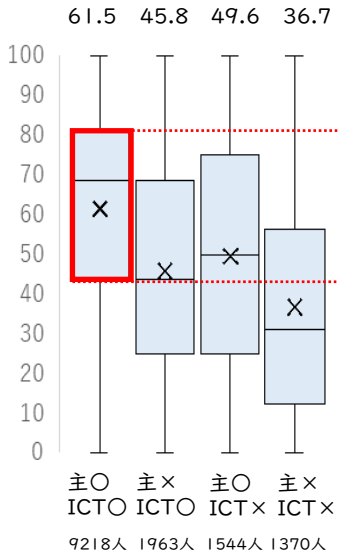
【小学校算数】



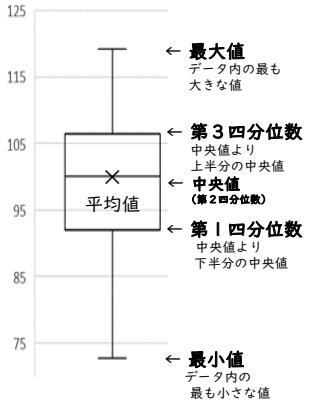
【中学校国語】



【中学校数学】



箱ひげ図は、中央値や四分位値といった統計量を示すことで、データがどのように分布しているかを可視化している。



いずれの教科においても、主体的・対話的で深い学びに取り組み、ICT活用に自信があるグループ（以下、「主〇ICT〇グループ」とする）は、正答率を表す箱ひげ図が最も上の位置にあり、主〇ICT〇グループの正答率は、他のグループの正答率よりも高い傾向が見られます。

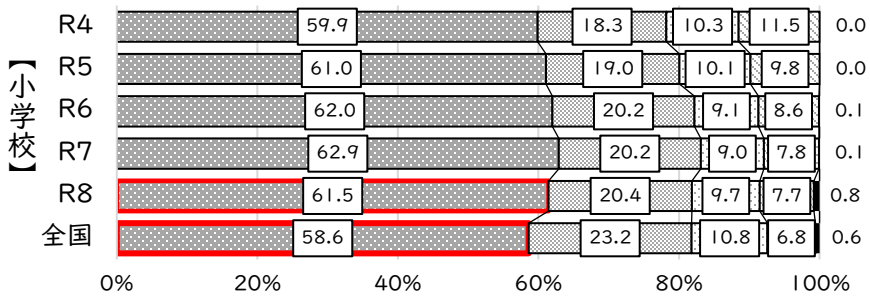
児童生徒のウェルビーイング①

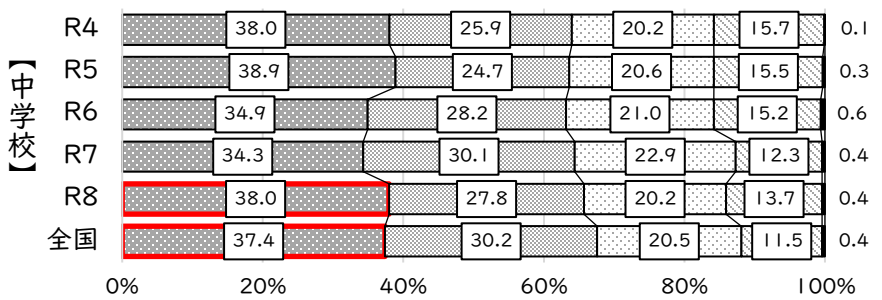
将来の夢

児童生徒質問項目〔10〕
「将来の夢や目標を持っていますか。」

■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない
■当てはまらない ■その他・無回答

「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、中学校ではやや増加し、全国と比較すると、小中学校ともにやや上回っています。



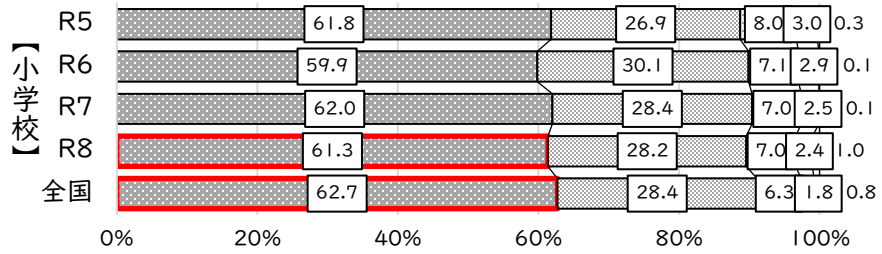


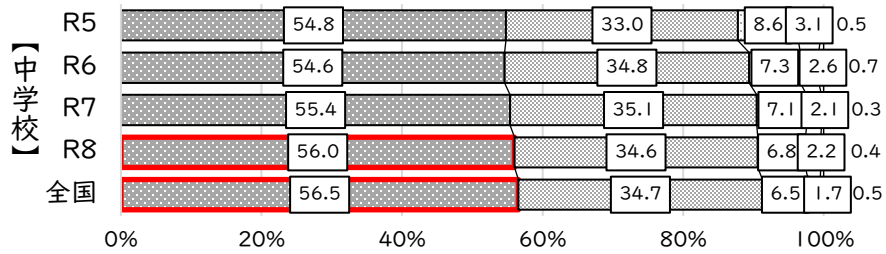
友達関係

児童生徒質問項目〔17〕 ※R4は該当する質問項目がありませんでした。
「友達関係に満足していますか。」

■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない
■当てはまらない ■その他・無回答

「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、中学校ではやや増加し、全国と比較すると、小中学校ともにやや下回っています。



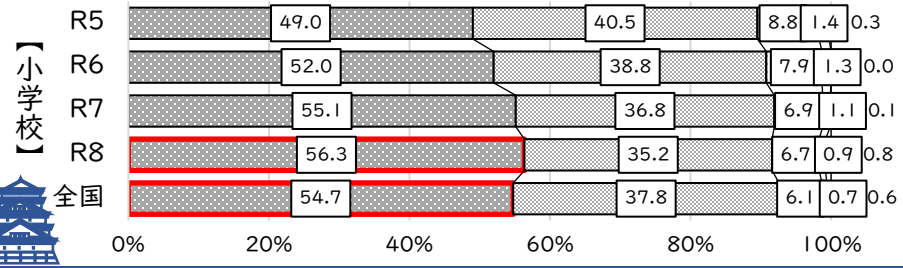


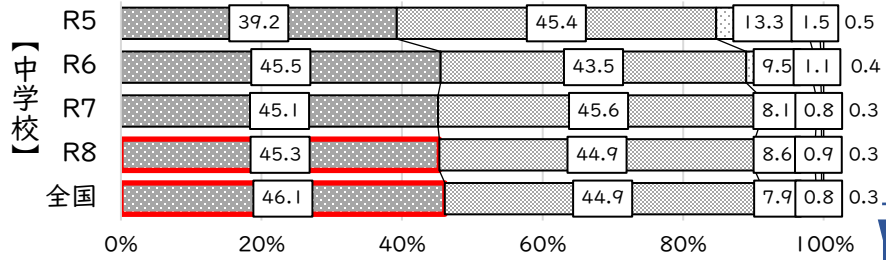
幸せな気持ちになること

児童生徒質問項目〔21〕 ※R4は該当する質問項目がありませんでした。
「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。」

■よくある ■ときどきある ■あまりない
■全くない ■その他・無回答

「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、小学校ではやや増加し、全国と比較すると、小学校ではやや上回っています。



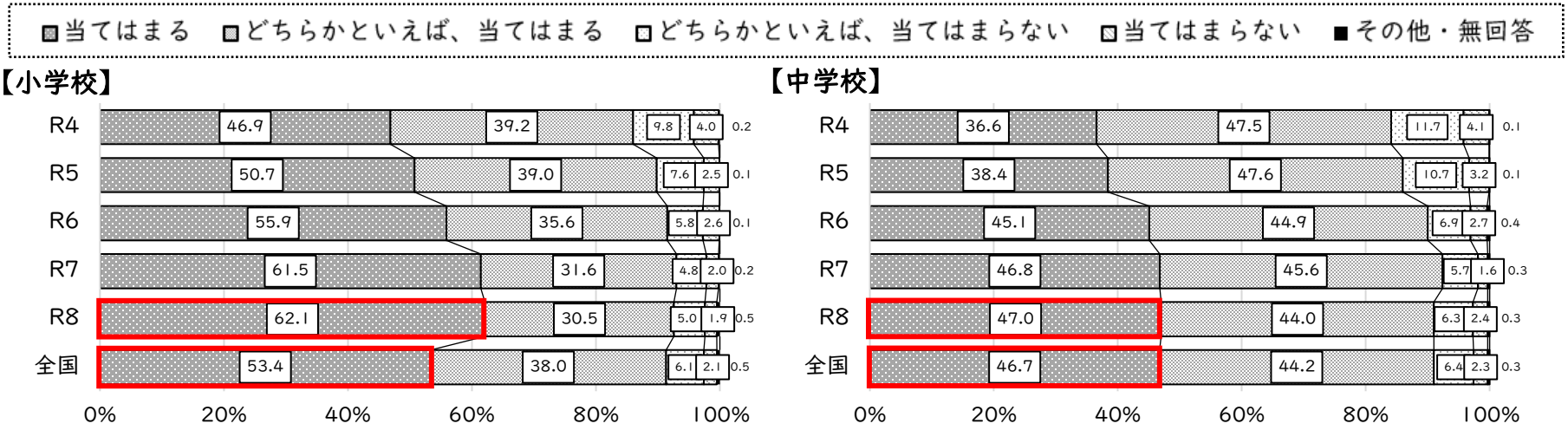


児童生徒のウェルビーイング②

先生とのかかわり

児童生徒質問項目〔9〕
「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。」

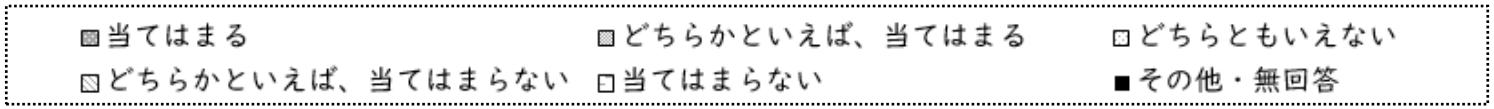
「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、小学校ではやや増加し、全国と比較すると、小学校では上回っています。

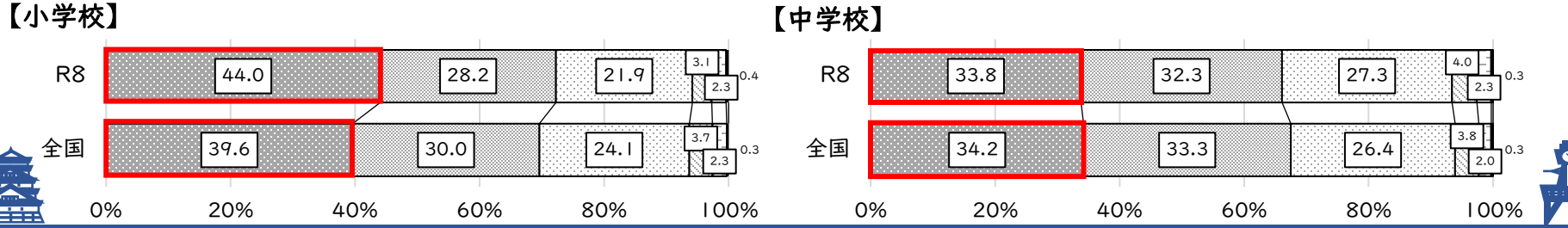


心理的安全性

児童生徒質問項目〔20〕【新規】
「あなたの学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思いますか。」

「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、全国と比較すると、小学校ではやや上回っています。





児童生徒のウェルビーイング③

教師によるサポートと心理的安全性に基づく授業改善が対話を促し、学校での学びをより豊かにし、**子どもたち一人一人のウェルビーイングにつながる可能性があります。**

- 「生き生きと学習に取り組み、学びを深め、友達と交流する」
- 「個に応じたきめ細かで継続した指導・支援の充実を図る」



教師による
サポート

心理的
安全性

小:0.81
中:0.87

質問〔9〕
「先生は、あなたのよいところを認めてくれている」

小:0.68
中:0.64

質問〔13〕
「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」

小:0.53
中:0.58

質問〔45〕
「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれている」

小:0.71
中:0.63

小:0.25
中:0.42

小:0.39
中:0.22



質問〔46〕
「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる」

小:0.35
中:0.37



質問〔15〕
「学校に行くのは楽しい」(※)

※国立教育政策研究所より発行されている「令和8年度全国学力・学習状況調査の結果(概要)」に基づき、質問【15】をウェルビーイングに関する項目ととして設定しています。

小:0.49
中:0.52

質問〔17〕
「友達関係に満足している」

小:0.63
中:0.62

質問〔20〕
「あなたの学級では、人と違う意見を言っても否定されない」

〇このページは共分散構造分析をもとに作成しました。(すべて0.1%水準で有意)
・共分散構造分析とは、互いに関連を持つ複数の要素間の関係性やその程度をモデル化する分析のことです。
・小学生17,494人、中学生15,135人を対象としました(各質問の無回答者は含めていません)。図中の小は小学生、中は中学生を表しています。
・片方向矢印は標準化係数であり、絶対値が大きいほど矢印の先の項目への影響力が大きいことを示しています。両方向矢印は相関係数であり、二つの変数の関係を表す係数を示す。値が1に近いほど、強い相関を表しています。